

令和元年度 事業報告・決算

社会福祉法人コミュニティーネットワークふくい

令和元年度事業報告

社会福祉法人コミュニティーネットワークふくい

令和元年度は、利用者に適したサービス提供を行えるように就労継続支援B型事業所を4事業所にて開始した。また、昨年に引き続き、A型事業の根本的な見直しを行い、事業の廃止・統合および新規事業の獲得の検討を実施した。

1 事業計画執行状況表

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の見直し 			
あわら事業所	就労継続支援B型	事業開始日	平成31年4月1日
おくえつ事業所	就労継続支援B型	事業開始日	平成31年4月1日
丹南事業所	就労継続支援B型	事業開始日	平成31年4月1日
若狭事業所	就労継続支援B型	事業開始日	平成31年4月1日
福井事業所	いづみ寮(グループホーム)	事業廃止日	令和2年3月31日
<ul style="list-style-type: none"> ・監事の事業所巡回 <p>事業計画の実施状況を図ることから実施した。</p> <p>巡回日 5月17日、20日、21日(3日間) 茂田井監事、武田監事 ・理事長、常務の事業所巡回 <p>巡回日 6月17日、6月20日、6月24日、6月27日(4日間)</p> ・室長、所長会議の実施(10回開催) <p>法人内・事業所内の課題を抽出し、意識を統一することで改善を図った。</p> </p>			
<ul style="list-style-type: none"> ・人財定着および確保に向けた職場環境の整備 <p>高等学校等11ヶ所を訪問、企業説明会に2回参加し、新卒者2名の採用となった。</p> <p>3ヶ月に1回有給の取得状況を確認し、取得を促す事で、有給休暇5日取得率100%となった。 ・利用定員充足率100%への取組み <p>各特別支援学校9ヶ所を訪問し、パンフレット等を用いて事業説明を行う。</p> <p>相談支援事業所との連携を図った。 ・設備の修繕への取組み <p>1月16日、2月12日、2月13日に事業書巡回を行い、危険箇所等の指摘を行った。</p> <p>修繕計画を策定した。</p> <p>固定資産台帳を整理し、新たに写真と番号を台帳に張り付け、より管理しやすい台帳とした。 ・全事業所が連携できる体制作り <p>サビ管連絡会、支援力向上委員会、相談支援連絡会をそれぞれ毎月開催した。 ・施設整備及び処遇改善のための財源確保 <p>四半期毎の予算進捗管理を実施した。</p> <p>経理規程(細則)を策定した。 ・その他 <p>7月3日、7月4日、7月8日、7月9日、7月12日に安全運転講習会を全事業所、全従業員にむけて行い、保険適用となる車両事故は前年度9件に対し今年度5件と大幅に減少した。</p> </p></p></p></p></p>			

2 理事会

① 令和元年度 第1回理事会 令和元年5月27日(月)10:00~11:45 (本部 会議室)

第1号議案

平成30年度 事業報告・決算について

第2号議案

社会福祉充実残額について

第3号議案

経理規程の改定について

第4号議案

定時評議員会の招集について

その他

1. 新理事・監事候補者(案)について

2. 役員、評議員及び評議員選任・解任委員の報酬に関する規程の変更について

② 令和元年度 第2回理事会 令和元年6月13日(木)13:30~13:42 (本部 会議室)

第1号議案

社会福祉法人コミュニティーネットワークふくい 理事長の選定について

第2号議案

社会福祉法人コミュニティーネットワークふくい 役員の選定について

③ 令和元年度 第3回理事会 令和元年8月22日(木)10:00~11:32 (本部 会議室)

第1号議案

令和元年度 第1四半期執行状況および事業報告について

報告事項①

平成30年度監事監査指導事項についての対応状況について

報告事項②

本部・丹南事業所非常用発電機の入替について

④ 令和元年度 第4回理事会 令和元年11月26日(火)10:00~11:30 (本部 会議室)

第1号議案

令和元年度 第2四半期執行状況および事業報告について

第2号議案

令和元年度 補正予算(案)について

第3号議案

就業規則の改定について

第4号議案

賞罰委員会設置規程の改定について

第5号議案

給与規程の改定について

第6号議案

令和元年度 第2回評議員会の招集について

⑤ 令和元年度 第5回理事会 令和2年2月17日(月)13:30~14:25 (本部 会議室)

第1号議案

令和元年度 第3四半期執行状況および事業報告について

第2号議案

いづみ寮の廃止について

⑥ 令和元年度 第6回理事会 令和2年3月17日(火)13:30~15:10 (本部 会議室)

第1号議案

令和2年度 事業計画・予算(案)について

第2号議案

令和元年度 第2次 補正予算(案)について

第3号議案

就業規則の改定について

第4号議案

給与規程の改定について

第5号議案

経理規程の改定について

第6号議案

人事について

第7号議案

令和元年度 第3回評議員会の招集について

報告事項①

福井事業所の多機能型への変更について

3 監事監査

令和元年5月17日、20日、21日 (本部 会議室)

4 評議員会

① 令和元年度 第1回評議員会 令和元年6月13日(木曜日)10:00~11:32 (本部 会議室)

第1号議案

平成30年度 事業報告・決算について

第2号議案

社会福祉充実残額について

第3号議案

新理事・監事の選任について

第4号議案

役員、評議員及び評議員選任・解任委員の報酬に関する規程の変更について

② 令和元年度 第2回評議員会 令和元年12月17日(火)10:00~11:30 (本部 会議室)

第1号議案

令和元年度 補正予算(案)について

報告事項①

令和元年度 第2四半期執行状況および事業報告について

③ 令和元年度 第3回評議員会 令和2年3月23日(月)10:00~11:20 (本部 会議室)

第1号議案

令和2年度 事業計画・予算(案)について

第2号議案

令和元年度 第2次 補正予算(案)について

報告事項①

いづみ寮の廃止について

報告事項②

福井事業所の多機能型への変更について

5 室長・所長会議の開催(10回開催)

4月19日 各事業所の課題(今後の予定含む)

GH利用者及びB型事業の状況について

5月27日 A型の利用について

・職業判定 重度の社員についての今後

利用者の受入基準について

・職員配置について ・利用契約、重要事項説明書の統一化を検討

7月4日 理事長・常務理事 事業所巡回の趣旨、スケジュール説明

監事監査指導事項についての今後の対応について詳細報告

8月27日 最低賃金変更に伴う時給の見直し等について予算との差異がないか検討した。

世話人の役割の見直しを行った。

9月20日 利用契約について正しく契約が締結されているか確認を行うこととした。

10月28日 山崎理事の巡回後の対応について各事業所で回答を用意することを決めた。

令和2年度予算作成について財務室よりルールの提示を行った。

11月26日 就労継続支援A型の各部門の検討のため、各事業所の現状を報告した。

12月17日 引き続き、就労継続支援A型の各部門の検討のため、各事業所の現状を報告した。

1月20日 あわら事業所、丸岡南中事業所のA型の今後の検討を行った。

1月27日 おくえつ事業所、福井事業所のA型の今後の検討を行った。

2月17日 丹南事業所、福井事業所のA型の今後の検討を行った。。

3月23日 20周年記念式典及び記念誌発刊について枠組みの説明を行った。

式典に合わせて法人名称変更についても検討することとした

6 令和元年度 入社・退職者一覧表

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
職員・嘱託	入社	3	2	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	8
	退職	1	0	1	0	2	1	0	1	1	0	0	5	12
就労継続A型社員	入社	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	退職	0	0	0	0	2	3	0	0	0	2	0	4	11
入社計		5	2	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	10
退職計		1	0	1	0	4	4	0	1	1	2	0	9	23

7 令和元年度 事業所別苦情件数一覧

事業所名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	事業所別計
福井	4	6	4	0	1	2	0	1	1	0	0	1	20
若狭	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	4
丸岡南中	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	3
おくえつ	0	1	1	0	0	0	0	1	1	0	2	1	7
あわら	0	2	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4
小浜	0	3	0	1	1	0	2	1	0	0	0	0	8
丹南	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3
月合計	4	14	8	2	3	2	2	3	3	0	6	2	49

令和元年度事業計画	令和元年度事業実績
<p>1. 目標と重点施策</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人の事業運営を法令、定款、経理規程等に従って計画的に行うとともに、法人全体及び各事業所の経営・財務状況を正確に把握する。 ・中長期に渡る計画の立案 ・人材定着および確保に向けた取組 ・全事業所が連携できる体制作り ・施設整備及び社員・職員の処遇改善のための財源確保。 <p>【重点施策】</p> <p>〈総務室〉 (総務部門)</p> <p>①中長期計画（事業展開・人材確保・建物等）の立案・策定を行い、先を見据えた取組を実施する。</p> <p>②人財育成体系（制度）を構築し、職員としてなるべき姿を目指せる体制を構築する。（年度内）</p> <p>③有給取得義務化も含めた「働き方改革」に適應するための、就業規則等の見直しや、状況把握の実施を行う。（3 ヶ月に 1 回）</p> <p>④職員採用において学校からの実習生・見学者に対して、その後のフォローアップや、企業説明会の開催など新たな取組を実施し、新卒採用者の確保を図る。</p> <p>(相談部門)</p> <p>① 現利用者に適したサービスを第一に考え、事業所及び保護者との連携を強化する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・四半期ごとに、予算との比較、年度予測をたてて経営・財務状況の把握を行った。事業所の連携、職員の交流も全体研修等を通して活発になった。中長期計画の立案には至らなかった。人材は新卒者 2 名を採用した。支援力向上委員会やサービス管理責任者連絡会を毎月開催し、また、令和元年度においても職員全体研修会を開催した。 <p>① 立案に至らなかった。</p> <p>② 法人内全体研修を今年度も計画し、職員・嘱託職員・アルバイトを対象に、虐待防止研修等に取り組んだ。また職員の 5 ヶ年研修計画を作成し、職員のスキルアップができる体制の構築を行った。</p> <p>③ 働き方改革に適應するため、就業規則の慶弔休暇等の項目を見直した。また、有給休暇取得について職員・嘱託職員・社員・アルバイトの対象者について取得日数の把握を行い、取得日数 5 日間の義務化の調整を行い取得率 100%を達成した。</p> <p>④ 大学生の施設見学のバスツアーを計画・実行し、法人内ピーアールを行った。また、企業説明会に積極的に参加し、新卒者 2 名の採用に至った。</p> <p>① 保護者との連絡について、全 231 件中 221 件直接保護者との面談を実施した。10 件は電話にて連絡を行い連携強化に努めた。</p>

②多様なニーズに対応できるよう関連機関（行政および入所施設等）への訪問を行い、社会資源の確保に努める。そのためにも、定期的な訪問を実施し、関係構築を進める。（3ヵ月に1回）

③相談支援専門員の養成・資質向上
相談支援員間の連絡会を行い、情報共有および個人のレベルアップを図る（連絡会 毎月実施）

〈財務室〉

①事業所・部門毎の予算進捗管理の把握を行う。

②修繕・入替計画を見直し、中期資金計画を策定する。

③会計責任者・担当者の資質向上のために、勉強会を年4回行う。

④会計処理に関する業務手順書を作成し明確化・統一化を図る。

⑤増税への対応を計画的に行う。

〈企画事業室〉

①利用者の利用率を数値化し明確な目標設定及び進捗管理を行い、利用者の定着化を目指す。

②支援員の質を上げ、よりよい障害福祉サービスを提供することにより、利用者確保を行う。

② 関係構築のため、各相談員は行政へ月1回の訪問を行い案件の調整を行った。また、その他、地域の相談支援部会に参加し他法人や行政機関との関係構築にも取り組んだ。

③ 毎月法人内で相談連絡会を開催し、各相談員の情報交換の場を設けた。また、国研修の伝達研修を行った。

① 支援費の進捗管理は毎月行い、その他の科目においては四半期ごとに行った。

② 修繕・入替計画は継続し、基本、その都度、細部にわたり協議した。

③ 合同会計から、外部講師を招くなどして2回勉強会を行った。各事業所に巡回し、システムの操作方法の勉強会を行った。

④ 科目の取り扱い、予算の作成などルール化を進め、業務手順書を作成した。

⑤ 大きな混乱なく、増税対応を行えた。

①目標設定には至らなかったが、各事業所の利用率の推移を把握し、利用率向上を促した。

② より良い障害福祉サービスを提供するため、アセスメントを再作成し、評価基準の見直しを行った。また、利用者確保を行うため、ホームページを更新し、新しい情報の提供に取り組んだ。

令和元年度事業計画	令和元年度事業実績															
<p>1. 目標と重点施策</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社員・利用者が充実したサービスを受けられるよう本人のアセスメントを定期的にとり、能力、体力、年齢などの状況を把握し、その方にあったサービスが受けられるよう支援していく。 <p>【重点施策】</p> <p>① 社員・利用者のアセスメントを年2回以上実施し、サービス管理責任者および担当者などで担当者会議を実施し、その方の状況と今後の支援方針などの共有を図る。</p> <p>② 年2回以上、保護者を含めた面談を行い、個別支援計画・アセスメントなどを基に本人の状況報告や国、県、法人などの方針や制度の情報提供を行い、保護者との信頼関係や制度などへの理解を深めていく。</p> <p>③ 相談支援専門員と連携し、サービス等利用計画をサービス管理責任者と担当者が確認し、利用者本人や保護者が希望しているライフプランを把握することでスムーズにその方に合ったサービス移行できるようにアドバイスしていく。</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材の育成・定着 <p>【重点施策】</p> <p>① 職員資格取得支援助成制度を活用し、職員の知識・技術の向上を図る。 (介護職員初任者研修2名)</p> <p>② 義務化される年間有給取得5日を遵守するための人員配置体制の整備と計画的に取得できる仕組みづくり、有給休暇を取得しやすい環境づくりを行う。</p> <p>③ 職員は、年1回以上の研修に参加する。</p>	<p>1. 目標と重点施策</p> <p>【目標】</p> <p>サービス管理責任者や担当者が本人の希望や状態を把握することで、その方にあったサービスへの移行ができた。</p> <p>グループホーム4名→高齢者施設2名 地域移行2名 宿泊型自立訓練6名→ 入所施設2名 地域移行4名 就労継続支援A型 → 一般就労1名</p> <p>【重点施策】</p> <p>①・② 実施状況</p> <table border="1" data-bbox="813 739 1500 1086"> <thead> <tr> <th>サービス</th> <th>アセスメント 2回以上</th> <th>保護者面談 2回以上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>就労継続支援A型</td> <td>17人/17名中</td> <td>14人/17名中</td> </tr> <tr> <td>生活介護</td> <td>32人/35名中</td> <td>14人/35名中</td> </tr> <tr> <td>宿泊型自立訓練</td> <td>8人/10名中</td> <td>7人/10名中</td> </tr> <tr> <td>共同生活援助</td> <td>12人/16名中</td> <td>8人/16名中</td> </tr> </tbody> </table> <p>未達成の理由として、こちらから連絡を取る事が出来なかったため、移行対象者以外の方は、年2回以上行っていない。</p> <p>③ 本人・保護者の意向と希望しているライフプランを把握し、11名サービス移行を進めることができた。</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員退職者4名、特定職員退職者2名となり、行っていない。 <p>人材の育成においては各研修に参加した(強度行動障害・苦情解決セミナー・虐待権利擁護・サービス管理責任者基礎・福祉職員キャリアパス対応・強度行動障害・中堅職員キャリアパス・食中毒予防後援会等)</p> <p>【重点施策】</p> <p>① 今年度、資格取得支援助成制度を活用し計画していたが、退職者が多く現場の従事者が必要になり受講に至らなかった。</p> <p>② 有給取得計画表を作成したため、目標の5日間を上回り、平均有給取得日数6.6日/1人となる。</p> <p>③ 職員は、年1回以上の研修に参加する予定だったが、退職者が多く現場の従事者が必要になり受講に至らなかった。17名中 11名の参加となった。</p>	サービス	アセスメント 2回以上	保護者面談 2回以上	就労継続支援A型	17人/17名中	14人/17名中	生活介護	32人/35名中	14人/35名中	宿泊型自立訓練	8人/10名中	7人/10名中	共同生活援助	12人/16名中	8人/16名中
サービス	アセスメント 2回以上	保護者面談 2回以上														
就労継続支援A型	17人/17名中	14人/17名中														
生活介護	32人/35名中	14人/35名中														
宿泊型自立訓練	8人/10名中	7人/10名中														
共同生活援助	12人/16名中	8人/16名中														

2. 目標平均利用者数

事業内容	定員	30年度	31年度
就労継続 A型	20名	21.6名	17名
生活介護	30名	33.7名	26名
日中一時	10名	4.1名	5名
宿泊型自 立訓練	20名	8.4名	10名
短期入所	6名	4.2名	5名
いづみ寮	5名	4.9名	5名
みどり寮	6名	5.1名	6名
グリーン ハウス	7名	6.0名	7名

3. 個別事業の説明

【就労継続支援 A 型】

- ・社員中心でできる環境づくり

- ① サービス管理責任者および担当者が社員のアセスメントを把握し、他事業所・他作業への実習などを通して適性を見極め、本人が活躍できる場を提供していく。
- ② 月 1 回、社員を含めて改善会議を実施し、仕事に対しての課題・問題を共有し、一人ひとりが責任を持ち仕事に取り組める環境をつくる。

<食品加工>

- ・ HACCP に基づいた衛生管理の徹底

温度管理などの記録を一部の社員が行っているが、社員全員に役割分担し記録をすることで衛生管理の意識向上に努める。

- ・ 事業収益の改善

- ① 社員の適性配置とタイムスケジュールを明確にし、ムダな動きをなくし 10 名体制での事業を実施し、収益の改善を行う。
- ② 午後からは訓練を目的に寮の夕食作りを社員で行い、技術向上を図ることで作業時間の短縮などの効率向上に努める。
- ③ 仕入業者の見直し、価格の見直しを行い、材料費率(材料費/売上高)39%を目標に 3%改善に努める。

2. 実績平均利用者数

事業内容	定員	31年度
就労継続 A型	20名	15.5名
生活介護	40名	21.7名
日中一時	10名	2.9名
宿泊型自 立訓練	20名	6.5名
短期入所	6名	3.1名
いづみ寮	5名	3.3名
みどり寮	6名	4.9名
グリーン ハウス	7名	5.2名

3. 個別事業の説明

【就労継続支援 A 型】

- ・社員中心でできる環境づくり

- ① 社員一人一人のアセスメントを把握し、本人が活躍できる場の提供を行ったが、本人が他事業所のサービスに希望がなかったため、実習はできなかった。
- ② 社員を含めた改善会議はできていないが、毎日の終礼時に、課題・問題の共有を図り一人ひとりが責任を持ち仕事に取り組めるよう意識向上を図った。

<食品加工>

- ・ 社員全員が役割分担するときペアを組み、お互い教え合いながら、記録などの衛生管理に対する意識の向上に努めた。

- ・ 事業収益の改善 (2,397 千円の改善)

30 年度事業収益 △8,302 千円→

31 年度事業収益 △5,905 千円

- ① 社員のタイムスケジュールを明確化し無駄な動きをなくすよう努めたが、1 名移行先が見つからず、11 名の体制となる。
- ② 午後からの夕食作りに社員が加わることで、作業時間の短縮を図り、技術向上にむけて一部の社員の訓練を行った。
- ③ 食堂メニューの価格の見直しを行った。材料費率は 42%→38%に改善することができた。

<受託>

・事業収益の改善

実施している作業について、事業収益改善を図る。31年度中に事業の検討を行い、継続して事業を行うか判断をする。

①電子部品作業の新規通年作業の確保

・社員増をせず、新規通年作業（80千円/月）で取り組んでいく。

②新規事業確保へ向けた取り組み

・清掃受託などを受けている企業に訪問営業し、作業確保を行う。

【生活介護】

・活動内容の充実

利用者が多くの活動に参加でき充実感を味わえるように活動内容を見直す。

①集団活動・個別活動の充実

・節分やクリスマス会などの季節行事や花見、買い物などの所外活動を月1回実施。

・個別支援計画に基づき各々の状況に合わせた支援を行う。

②軽作業への取り組み

・保温シート拭きは、知的・身体に関係なく誰でも簡単にでき、達成感や楽しみを持ち参加できる作業となっており継続して行う。参加率を高めるとともに新規利用者の確保につなげていく。

（常時参加 6名→9名 時々参加 2名→4名）

・活動場所の美化

利用者が心地よく生活を送れるように環境美化に努める。

③修繕箇所については、優先順位をつけ予算に基づき修繕し管理を徹底していく。

<受託>

・事業収益の改善（1,933千円の改善）

30年度事業収益 △2,759千円→

31年度事業収益 △826千円

31年度中検討はできなかった。令和2年上半期までに事業の継続の判断をする。

① 電子部品作業の新規作業の交渉はしたが、確保はできなかった。

② 新規事業確保のため2社（石川技研㈱・ウォンツ㈱）営業を行うが条件が合わず繋げることができなかった。引き続き事業所内でできる新規事業の営業を行っていく。

【生活介護】

・12月より外部の講師を招きミュージックケアを活動に取り入れ、利用者全員で参加ができ、音楽を楽しんだり、手遊びをしたり、充実感が味わえる活動ができた。

①・集団活動の充実のため9回/年、所外活動を行う。（お花見、夏祭り等季節毎のイベント）

天候や新型コロナウイルスの影響により3回は自粛した。買い物など、外に出る活動は少なかったため、来年度は増やす計画を行う。

・午後の個別活動にて、支援計画に基づいた支援を行っていたが、プログラムが確立しておらず、十分に支援ができなかった。

②5月中旬より、1名職員が退職により携わる職員が不足し、保温シート拭き作業が継続できなくなる。

美化について、フロア内の掃除を毎朝行っていたが、掃除が行き届かない箇所もあったため、掃除分担表の作成を行う。

③修繕入れ替え計画の優先順位通り、風呂の天井カビ取り清掃の相見積りを取り、実施した。

【宿泊型自立訓練・短期入所】

・利用者の確保

①特別支援学校の実習時に学校および保護者に宿泊型自立訓練のサービスの紹介をする。宿泊型自立訓練を希望される方については、実習期間に短期入所の利用・体験をしていただき卒業後の利用につなげていく。

②法人内他事業所、相談支援員と連携し情報を共有し、体験も含めた短期入所の利用を促進し、利用者の確保に努める。

・余暇支援の充実

夏祭り、BBQ 以外のイベントを年 2 回以上実施し、利用者の地域交流の場を提供する。

【グループホーム】

・安全、安心に充実した生活を送れる環境整備

①いづみ寮について、利用者の安全を確保できないことから廃止を検討し、利用者の移行を 31 年度中に進めていく。

②高齢・重度の利用者が安心・安全に暮らせるサービスへの移行推進。

対象者：高齢 4 名 重度 3 名

③グリーンハウスの風呂釜(炭を焚く)方式から電気による保温システムへの変更をし、火災の危険性を下げる。

【日中一時】

・利用者の確保

①日中一時のパンフレットを作成し、特別支援学校や相談支援事業所へ配布し利用者を確保する。1 日平均利用者数 3 名増を目標とする。

【宿泊型自立訓練・短期入所】

・利用者の確保

①特別支援学校へ月 2 回の訪問し、パンフレットを用いてアピールを行ったが新規の利用者には至っていない。見学者は 4 名きたが、実習に繋がらなかった。

②相談支援員と連携し介護利用者 1 名が、短期入所の利用を開始した。

・余暇支援の充実

利用者に地域交流の場を年 3 回行えた。

・カヌー体験＝1 回 (9 月)

・カラオケ・ボーリング・食事会＝1 回 (5 月)

・カラオケ・映画鑑賞・食事会＝1 回 (10 月)

【グループホーム】

・安全、安心に充実した生活を送れる環境整備

①いづみ寮は、令和 2 年 3 月 31 をもって廃止。在籍 4 名中グリーンハウス 1 名、みどり寮 1 名、他施設 2 名(内 1 名高齢者住宅) に移行。

②高齢・重度の利用者が安心・安全に暮らせるサービスへの移行推進について対象高齢者 4 名中 2 名が高齢者施設への移行。重度 3 名は移行できていない。

③グリーンハウスの風呂釜(炭を焚く)方式から電気による保温システムに改良をおこなった。

【日中一時】

①特別支援学校へ年 4 回の訪問しアピールを行った。ポスター、パンフレットを作成し特別支援学校に訪問を行ったが、利用増につながらず、平均利用者数 4.1 名→2.9 名と減員となる。魅力ある事業運営を行い、利用者獲得に向けて取り組むため、プログラムを検討し再度訪問を行う。

令和元年度事業計画	令和元年度事業実績
<p>1.目標と重点施策</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者・社員の一人ひとりにあった適正サービスを提供する ・各サービスの収支健全化 <p>【重点施策】</p> <p>① アセスメント結果に基づいた利用者・社員の転籍</p> <p>全利用者のアセスメントを実施し、3者面談を行い(年2回)一人ひとりに合ったサービスへの転籍を勧める。</p> <p>生活介護→B型 3名(予定) A型→B型 4名(予定)</p> <p>②B型事業の作業・支援内容の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者それぞれに合った作業を提供し、余暇活動を取り入れながら毎日楽しく過ごせるよう支援 <p>月1回、所外活動・食事会等の余暇活動日</p> <p>③A型事業の事業収益健全化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベイク部門社員の製造技術向上による人員配置適正化(社員7名→4名) ・食品加工部門の社員を増員し惣菜受託を強化する(社員10名→14名) ・農業部門の農地管理の徹底 	<p>1. 目標と重点施策</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社員・利用者との面談を行い適正サービスへの移行を推進した。 <p>生活介護→B型 1名 A型→B型 4名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・30年度決算額 14,183千円 →31年度決算額 18,795千円 <p>【重点施策】</p> <p>①3者面談において14名の方が遠方のため、保護者との面談ができず、未達成となる。 (76名/90名)</p> <p>アセスメント実施率：100%</p> <p>他サービスへの転籍人数</p> <p>生活介護→B型 1名 A型→B型 4名</p> <p>②B型事業の作業・支援内容の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あじさい公園清掃・製塩を主な作業として平均工賃21,253円を支給した。 ・年稿博物館、食事会、カラオケ、紅葉散策、武生菊人形、箸研ぎ体験等1回/月以上の余暇活動を行う。 <p>③A型事業の事業収益健全化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベイク部門の社員を作業量に合わせた人数にした。(売上予算比147%の為社員7名→5名) ・冷凍冷蔵業の営業許可を取得して冷凍品の出荷開始。惣菜受託商品の一部を冷凍化し作業効率向上。(社員10名→11名) ・長期休暇中の水管理の徹底を行い、1反あたりの収量 前年比136%増加。

2. 目標平均利用者数

事業内容	定員	30年度	31年度
就労継続支援 A型	30名	35名	33名
就労継続支援 B型	10名	新設	4名
生活介護	14名	11名	12名
日中一時	15名	2名	2名
介護保険	10名	1名	休止
わかさ寮	20名	19名	19名
短期入所	3名	3名	3名
おおとば寮	9名	8名	8名

3. 個別事業の説明

【就労継続支援 A 型】

<食品加工>

・社員配置を増強し、マースターをはじめとする惣菜製造受託の拡大を行う。

社員 10名 → 14名

マースター受託売上 818 千円(月平均) → 1,100 千円(平成 32 年 3 月)

・かっちゃん食堂を、社員・寮生専用食堂に転換

<ベーカリー>

・販売体系の見直しを行うことで原価率・廃棄率の改善

・卸売りの見直し…定価の 75%~85%卸の卸価格見直し

<コンビニ>

・社員主体の店舗運営の継続

消費期限の長い商品の発注業務の社員への移行

<営農>

① 農地管理を確実にし収量向上
(反あたり 276 kg → 390 kg)

② 社員の営農技術強化となる支援員の育成

【就労継続支援 B 型】

<製塩>

・安全・安心な商品の提供、事故ゼロ。

2.実績平均利用者数

事業内容	定員	31年度
就労継続支援 A型	30名	34名
就労継続支援 B型	10名	3.5名
生活介護	14名	10.6名
日中一時	15名	2名
介護保険	10名	0名
わかさ寮	20名	17.8名
短期入所	3名	1.9名
おおとば寮	9名	7.5名

3. 個別事業の説明

【就労継続支援 A 型】

<食品加工>

・大阪のスーパーマーケットとの大型取引は定期的に注文はなく 3 回の注文となった。

社員 10名 → 11名

マースター受託売上 812 千円(月平均)

年度終盤からアイテム拡充なく売上減少傾向

・かっちゃん食堂の一般向け食堂を廃止する。

<ベーカリー>

・材料仕入れ先や売れ筋調査をしたが原価率に大幅な変化なし。 50%→48%

・パン・コンビニ商品の卸先 3 社と交渉し若狭高校の卸価格見直し。 80%→85%

<コンビニ>

・社員のレジ実習を行いレジ従事社員が増えた。お菓子やたばこ等の発注も社員が取り組めた。レジ従事・発注社員 2 名→4 名

<営農>

① 農地の水管理等の徹底により、1 反あたりの収量 375 kg 増加。

② 5 月より支援員 1 名を増員し体制強化。県農水課から技術指導を受けた。

【就労継続支援 B 型】

<製塩>

・クレームなし。事故ゼロ。

<あじさい公園管理>

- ・ゲートボールグラウンドのコケ生育防止

【生活介護】

①利用者の確保

- ・定員充足を目標に相談支援専門員・学校・市町等との連携強化

②地域交流の充実

- ・地域交流機会を増やし地域活動の充実と障がい者理解を深める
- ・ふれ愛交流まつりの開催 10月
- ・近隣小学校と交流会 5回/年

【グループホーム】

- ・充足率 100%の維持
- 移動支援等の地域福祉サービスを活用して休日の余暇支援を充実する

- ・地域交流の充実

地域行事に参加。(奉仕活動、納涼祭、避難訓練)

- ・おおとば寮の老朽化対応

地域や特別支援学校のGHニーズを調査検討した上で、3年後の実施をめどにおおとば寮立替・増設・修繕を検討する。

<あじさい公園管理>

- ・グラウンドにコケ防止剤を散布した。事業所全員で公園管理に取り組んだ。

【生活介護】

① 利用者の確保についての取り組み

- ・自立支援協議会での呼びかけや、特別支援学校を訪問(3回/年)を行い新規利用者1名獲得につながる。

② 地域交流の充実

- ・食事会やイベント参加やふれ愛交流まつり等の余暇・所外活動を1回/月以上行った。
- ・ふれあい交流まつりを10月に開催し、地域4校の小学生と貼り絵やスティックリング・スタンプラリーを行い交流を図った。
- ・近隣小学校と交流会5回/年

【グループホーム】

- ・年度中3名退寮(1名逝去、2名地域生活へ移行)により3月末充足率89.6%となる。

- ・ポッチャ教室、日帰り旅行、地域奉仕活動等を行い余暇活動に力を入れた。

- ・世話人会議でおおとば寮のあり方について検討を行った。1回/月
- 特別支援学校の進路指導部と面談し在校生のGHニーズを調査した。1回/3ヵ月

令和元年度事業計画	令和元年度事業実績												
<p>1. 目標と重点施策</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皆が作業に対し共通意識を持ち、異物混入ゼロ（今年度6件）を目指し安心・安全で美味しい給食の提供を心がける。 ・社員の適正を理解し、担当業務の中で適切な支援が行えるよう職員一人ひとりの資質向上を図り、個別支援計画に沿って利用者支援の充実を図る。 ・グループホームの定員充足を計画的に行う。 <p>【重点施策】</p> <p>①職員、社員一人ひとりが身だしなみ、衛生管理を徹底し異物混入ゼロを目指し、（6件→0件）美味しい給食を提供し残食減を目指す。 目標残値 g/日（南中 1.5 kg）（鳴鹿小 300 g）以内</p> <p>②社員の教育強化を図り、栄養士、調理師を講師として社員向けに半期に1度以上研修を行い衛生面及び調理技術の向上を図る。 （HACCP、手洗い、ノロウイルス、食中毒）</p>	<p>1. 目標と重点施策</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異物混入(毛髪・虫混入)が10件発生 毛髪・虫の混入については、配膳前・配膳後の特定が困難な状況で原因等不明。 予防として白衣等への毛髪等の付着の防止(粘着テープ使用)、帽子から毛髪等がでていなかの身だしなみチェックを行っている。 安心・安全な食事の提供を行うため衛生管理の講習を年に2回(手洗い、まな板などの使用用途による色分けの確認、白衣と帽子的着方など)実施した。 ・外部研修職員全員1回以上受講(9名/9名) 強度行動障害、相談支援従事者研修(初任・現任)、中堅職員研修、初任者研修など ・グループホーム（以後GH）の定員12名 現員10名。社員の面談時に保護者へ体験入寮など含めた案内をする(対象者17名中 案内17名)が新規利用および希望者なし。 <p>【重点施策】</p> <p>①異物混入10件（毛髪・虫混入など） 残食数実績</p> <table border="1" data-bbox="847 1420 1481 1570"> <thead> <tr> <th></th> <th>前年度実績</th> <th>目標値</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>南中</td> <td>3.0kg/日</td> <td>1.5kg/日</td> <td>3.9kg/日</td> </tr> <tr> <td>鳴鹿</td> <td>600g/日</td> <td>300g/日</td> <td>700g/日</td> </tr> </tbody> </table> <p>(残食増の要因)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は残す生徒、おかわりする生徒が両極端にいたため。 ・今年度栄養士は食育の観点から人気のあるパンや麺類の提供回数を減らし、ごはんや魚をより多く使用したメニューにしたため <p>②衛生管理の講習を2回実施 衛生管理の講習を2回(手洗い、まな板などの使用用途による色分けの確認、白衣と帽子的着方など)を実施。</p>		前年度実績	目標値	実績	南中	3.0kg/日	1.5kg/日	3.9kg/日	鳴鹿	600g/日	300g/日	700g/日
	前年度実績	目標値	実績										
南中	3.0kg/日	1.5kg/日	3.9kg/日										
鳴鹿	600g/日	300g/日	700g/日										

③納入業者の見直しを行い、品質を第一に価格等の交渉を行い経費対比5%削減を目指す。(現45%→40%)

④作業の見える化(マニュアル)を行い、作業の効率化を高め誰がヘルプに入っても分かりやすい環境を整え、職員、社員の能力向上に努める。(現在、写真マニュアルあり)

⑤グループホームの運営方法等の見直しを図る。丸岡南中事業所の就労継続支援A型を利用したい利用者を優先的に他事業所等より定員充足を図る。

2. 目標平均利用者数
(施設外就労含む)

事業内容	定員	30年度	31年度
就労継続支援A型	14名	22名	20名
ハーツ丸岡ハイム	7名	6.9名	7名
まち中ホーム	5名	3.9名	4.8名

3. 個別事業の説明

【就労継続支援A型】

・安心・安全で美味しい給食提供に努め、各部署に作業の見える化(写真・作業工程)を行い作業に対する迷いを無くし各職員、社員が責任ある判断と行動の基、作業意欲を高めていく。

③野菜の仕入れ業者(丸岡地区)を2社から3社へ増やし、価格の交渉を行った。その他の業者との価格交渉や新規事業者の取入れはできなかった。

(材料費率)

	前年度実績	目標値	実績
南中	45%	40%	44%

④下処理の作業手順(マニュアル)を作成し、新しい職員が入った場合でもわかるようになり、業務がスムーズに引き継ぐことができた。加熱・サテライトについては、未完成となっている。

⑤運営法の見直しとして各GHへ専従の世話人配置などを行い支援の充実を図った。各GHの定員12名 現員10名。社員の面談時に保護者へ体験入寮など含めた案内をする(対象者17名中 案内17名)が新規利用および希望者なし。

他事業所ではあわら事業所より社員1名見学するが利用につながらず。

2. 実績平均利用者数
(施設外就労含む)

事業内容	定員	31年度
就労継続支援A型	14名	20.1名
ハーツ丸岡ハイム	7名	4.7名
まち中ホーム	5名	5.0名

3. 個別事業の説明

【就労継続支援A型】

・調理機器の使用や加熱時間の掲示などを行っており一目でわかるようにしている。作業工程について、下処理は作成をしたが、加熱・サテライトについては、未完成となっている。

社員の責任を意識づけるために勉強会でグループワークを取り入れ、発言することで意識や意欲を高めることができた。

・個別支援計画を基に短期、長期目標（達成できそうな目標）を達成できるよう社員一人ひとりにあったサービス提供に努める。
計量が難しい場合デジタル量り→アナログ量り。いちょう切りが難しい→写真の見える化、反復練習等。

〈学校給食〉

・衛生管理、身だしなみ管理のチェックリストを用いて異物混入ゼロを目指し、安心・安全な給食提供に努め、残食減を目指す。

（南中 3kg→1.5kg）（鳴鹿 600g→300g）

〈青年の家〉

・2部体制の構築を目指し、社員一人ひとりの作業内容を明確(作業工程作成)にし、責任を持って作業に取り組み資質向上に努める。

【グループホーム】

・当事業所社員が利用するホームへと変換を図っていく。事業所内で遠方からの利用者への利用を引き続き促していく。それにともない、当事業所において現在のグループホーム2棟が必要かを検討する。
・専任の世話人の確保。生活支援員の支援体制の確立。

・社員の状況を確認しながらサービス管理責任者と担当者が話し合い、社員2名に対して作業内容や作業場所の変更を行った。
時間があるときに新しい事にチャレンジする機会を設けて作業練習を行えた。

切り方の練習 2名

調理機器の使用練習 2名

〈学校給食〉

朝礼時に身だしなみ等のチェックを行い厨房内に入るように取り組んだが、異物混入が発生。1月に白衣のキャップのかぶり方などの勉強会を実施した。

残食数実績

	前年度実績	目標値	実績
南中	3.0kg/日	1.5kg/日	3.9kg/日
鳴鹿	600g/日	300g/日	700g/日

（残食増の要因）

・学校からの聞き取りによると、今年度は残す生徒、おかわりする生徒が両極端にいたため。
・今年度栄養士は食育の観点から人気のあるパンや麺類の提供回数を減らし、ごはんや魚をより多く使用したメニューにしたため

〈青年の家〉

・勤務体制を早出(6:00~13:00)と遅出(13:30~20:30)を取り入れた。作業工程表を作成し、社員1人1人の作業分担ができたことで責任を持って仕事に取り組んでいたが、資質の向上にはつながらなかった。

【グループホーム】

・若狭から社員1名受け入れ。社員寮への移行は進まず。社員以外の方7名中、保護者(後見人含む)へ4名には社員寮への移行について説明済み。
・10月より1名の世話人を確保。支援員が交代でGHの支援に入る体制を作り行った。

令和元年度事業計画	令和元年度事業実績
<p>1.目標と重点施策</p> <p>【目標】</p> <p>・受注量の増加・製造員の適正配置を実施してA型事業の収支の改善に取り組む。</p> <p>・作業能力の向上だけでなく公共交通機関を利用した外出やクリスマス会などを利用した調理実習を行い自立した日常生活能力の向上にも努めおくえつ事業所B型事業の特色とする。</p> <p>・生活介護利用者の人数が30年度7名から31年度は9名に増える事から「工賃が欲しい」「ゆっくり過ごしたい」「少しは仕事がしたい」等の多様なニーズに対応できる様に、研修や見学・事例検討を通して生活介護職員のスキルアップを行う。</p> <p>【重点施策】</p> <p>① 作業工程の見直し、能力に応じた新たな部門への異動を行う。食品加工製造社員を30年度10名から31年度は6名とする。</p> <p>② 担当部門にこだわらず事業所全体で協力態勢をとりイベント参加や特注を積極的に請け、昨年度実績を上回るようにする。(イベント:9件、特注:6件)</p> <p>③ B型で新規作業を行う利用者のためにA型で使用していた手順書をB型利用者それぞれの障がい特性に配慮した手順書に改善する。奥越地域の公共交通機関を利用した外出やクリスマス会など</p>	<p>1.目標と重点施策</p> <p>【目標】</p> <p>受注量としては月額10万円増。 自動車部品新規組付け部品1種類獲得(A型)、イベント販売会に積極的に参加(12回)、A型社員の適正配置を行った。(30年度23名から31年度13名)</p> <p>・所外活動にてバスの利用1回と電車の利用1回を実施した。5月に事業所バーベキューでの食材カットや12月にクリスマス会でカレーを調理した。</p> <p>・九頭竜ワークショップ様から納期や日量に制限の無い仕事を頂き午前中は生産活動、午後は他の活動と安定して毎日基本のプログラムを組む事が出来るようになった。それを基準に自分たちのやってみたい買い物やペタンクといった活動を取り入れた。 九頭竜ワークショップ様の生活介護へ見学に行った。 介護福祉士実務者研修へ2名参加した。 法人の資格助成制度を活用して2名が介護福祉士を取得した。</p> <p>【重点施策】</p> <p>① 30年度の10名からB型に2名移行と一般就労1名として7名となった。他1名はB型の候補だったが1年を猶予に支援を行った。</p> <p>② 正月餅繁忙期の12月を除いて毎月、イベントに参加した。また通常の大きなイベントの年の市と左義長に加えハピリンで実施したあげフェスにも参加した。(イベント:12件、特注8件)新商品の豆乳プリンも各イベントで販売した。</p> <p>③ 手順書の大きな変更はなかったが数合わせボードを大きくする事や見にくいものは取り替えた。所外活動にてバスの利用1回と電車の利用1回を実施した。5月に事業所バー</p>

で調理・片付け・清掃の支援を計画し実施する。

④ 年度当初に希望月を聞き取り年間の計画を立てて有給休暇を取得する。有給休暇の取得が容易に出来るように各部門に主担当・副担当を配置する。

⑤ 福井県版ハサップの取得と、食品加工支援員において資格取得制度を利用して調理師免許取得、1名以上を目指す。

2. 目標平均利用者数

事業内容	定員	30年度	31年度
就労継続支援A型	20名	22.5名	12.7名
就労継続支援B型	10名	新設	6.8名
生活介護	10名	5.4名	7名
たていし寮	6名	5.6名	4.2名

3. 個別事業の説明

【就労継続支援A型】

〈全体〉

① 受注量の増加・製造員の適正配置を実施して収支の改善に取り組む。

② 少人数での生産になる事から作業工程などを見直し生産力を維持させる。

〈食品加工〉

① 食品加工社員を30年度 10名から31年度は6名とする。

② 少人数でも生産できる様に作業開始時間・シフト・備品などを見直し生産力を維持し生産性を上げる。

ベキューでの食材準備や12月にクリスマス会でカレーを調理した。

④ 計画通りに得出来なかった職員はいたが、義務である年間5日取得は達成出来た。

⑤ 年度内の達成は出来なかった。現在、担当職員だけでなく事業所全体で取得を目指している。

2名が調理師面書試験にチャレンジしたが取得できなかった。

2. 実績平均利用者数

事業内容	定員	31年度
就労継続支援A型	20名	12.9名
就労継続支援B型	10名	7.9名
生活介護	10名	6.3名
たていし寮	6名	3.6名

3. 個別事業の説明

【就労継続支援A型】

〈全体〉

① 新規組み立て部品1種類獲得(12月より)積極的なイベント参加(30年度9件~31年度12件)リカーワールド華様と昨年度より早く打ち合わせを行い注文書の配布を早く実施できた事で発注数が増加した。

(30年度41件 31年度87件)

各部門、能力・収入に合わせた人員配置を実施した。(30年度23名から31年度13名)

② 食品加工：出勤時間もち・豆腐部門で調整をして食品加工全体でもち・豆腐製造を行った。

自動車部品：検査社員の育成

〈食品加工〉

① 食品加工社員(30年度10名から31年度7名)

② もち製造と豆腐製造の製造開始時間をずらす事で繁忙時間に人員をかけて食品加工全体でもち・豆腐製造を行った。

③事業所全体で協力態勢を組んでイベント参加や特注を積極的に請け、昨年度実績「イベント:9件、特注:6件」を上回る。

④衛生管理の知識を習得した支援員の育成のため調理師免許取得、1名以上を目指す。

⑤おくえつ事業所農作業指導員の育成をする。

⑥目標水稻収量、あきさかり 24 俵(30 年度コシヒカリ 14 俵)・かぐら餅米 45 俵(30 年度実績 45 俵)とする。食品加工もち部門で使用するもち米を全量確保する。

〈自動車部品〉

①収益増のため新規部品を 1 種獲得する。

②手順書を順守し客先不良をゼロ(30 年度実績 1 件)とする。

③社員それぞれが出来る作業種を増やし生産性を上げる。

④社員の検査員を育成する。

【就労継続支援B型】

〈自動車部品〉

①研修や見学を通してB型利用者へ適切な支援を行う。

②机や部品の配置、手順書等を利用者に配慮し働きやすい環境を整備する。

③客先不良をゼロとする。

④作業量確保のため新規部品を 1 種以上獲得する。

③正月餅繁忙期の 12 月を除いて毎月、イベントに参加した。また通常の大きなイベントの年の市と左義長に加えハピリンで実施したあげフェスにも参加した。(イベント:12 件、特注 8 件) 年間イベント売上実績 688,000 円

④年度内の達成は出来なかった。2 名が調理師面書試験にチャレンジしたが取得できなかった。

⑤繁忙期には補助作業を行ってもらったが農業職員の育成に至らなかった。

⑥コシヒカリは在庫があったためかぐら餅米だけの栽培となった。

目標 69 俵→31 年度収量実績 77 俵

〈自動車部品〉

①新規組付け部品 1 種類獲得(単価@80 円/箱 100 千円/月)。

②客先不良ゼロ件。

③部品の入りが少ない時などを利用して新しい組付け作業技術の習得にあてた。全社員、1 種類以上習得した。

④現在の検査社員が 57 歳のため現在、27 歳に社員を育成中。

【就労継続支援B型】

〈自動車部品〉

①今年度新設となったので他法人の B 型の見学や同じような仕事をしている法人にアドバイスを受けて支援を行った。

②(株)フクタカ指定の手順書のため大きな変更はなかった。組付け部品と組付け後の部品の数を合わせる不良防止のボードを見やすく大きなボードに取り替えた。また座って作業も出来るように机の間隔を広げて一人ひとりの体調に合わせて作業出来るように改善を行った。

③客先不良が 1 件発生した。(株)フクタカの品質担当者と協議して改善を行い 1 件に留めることができた。

④新規組付け部品の依頼はあったが難易度が高かったため A 型で受けることになった。そのため B 型の新規組付け部品は 0 件となる。

⑤奥越地域の公共交通機関を利用した外出や調理実習を計画し実施する。

【生活介護】

①生活介護全体、1日の基本の流れを掲示しその中から個別に選択も出来るデイリープログラムを確立し利用者が落ち着いて過ごせる環境を提供する。

②研修や施設見学・月に1回以上の事例検討を通して職員のスキルアップを行う。

③月に1回、地域活動や公共交通機関利用した外出を実施する。

④奥越特別支援学校の31年度卒業生が例年より多い為、実習生の年間目標を2名として2ヵ月に1回、学校訪問を行う。

⑤奥越地区自立支援協議会や来所時において相談支援専門員と連携して見学・実習を受入れ、新規利用者1名を確保する。

【グループホーム】

①地域の方とのふれあい・マナーの向上を目的とし地域の清掃やイベントに参加する。

②60歳を超えた利用者に対して地域の自立支援協議会や相談支援専門員からの情報提供を受けて次のサービスに向けての支援を行う。

③2名が退寮予定なので利用希望者の体験利用や他事業所からの見学などを行い31年度目標平均利用者数4.2人以上を達成する。

⑤所外活動にてバスの利用1回と電車の利用1回を実施した。5月に事業所バーベキューでの食材準備や12月にクリスマス会でカレーを調理した。

【生活介護】

①九頭竜ワークショップ様から納期や日量に制限の無い仕事を頂き午前中は生産活動、午後は他の活動と毎日変化がなく安定してプログラムが組む事が出来るようになった。(利用率93%)

それを基準に自分たちのやってみたい買い物やペタンクといった活動を取り入れた。

②作業内容が類似している法人の見学や法人の資格助成を活用して2名が介護福祉士を取得した。

③地域活動や公共機関を利用した活動は設定した時期にクマの出没が相次ぎ実施することは出来なかった。月に1回の所外活動は実施する事が出来た。

④奥越特別支援学校で実施しているカフェに生活介護利用者を連れて年間4回参加した。また学校訪問も行ったがA型に1年、2年、3年生の実習はあったが生活介護にはなかった。

⑤11月に他の法人を休止中の利用者が見学・実習を行い1月に利用契約を結び1名確保することができた。

【グループホーム】

①地区の夏祭りや秋の文化祭に参加した。また事業所周辺の草むしりの実施や世話人とあさがおの定植も行い事業所の美化に努めた。

②入所に向けた他法人のGH利用や他の施設の利用を行ったが利用に結びつかなかった。一人暮らしすることを考慮して、各関連機関との関係を深めるために訪問看護や大野市の紫水の郷や勝山社協の老人・障害者や地域の方が集まるカフェを月2回利用している。

③正月餅繁忙期の期間を利用して社員が2名体験利用を行った。内、1名は本契約につながることができた。合わせて2月より新たに食品加工社員1名が利用を開始した。

冬の繁忙期まで利用希望がなく、定員6名中現員5名・平均利用者数3.6名となった。

令和元年度事業計画	令和元年度事業実績
<p>1. 目標と重点施策</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな事業展開（就労継続B型事業新設・生活介護拡大）の適正な運営（新規事業の開拓および利用者の確保） ・利用者の特性に合わせた支援体制作り ・社員、職員の働きやすい職場環境作り <p>【重点施策】</p> <p>① 利用者にあった適正なサービスへと移行を図るために、社員・保護者に対し、定期的な面談を行い計画的に進める。 目標：対象者10名に対し3ヶ月に1回実施</p>	<p>1. 目標と重点施策</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・B型事業では、A型からの移行を進め、目標4名に対し3名の利用者増となった。また、新規作業確保については、4社へ見学等を行ったが、スポット作業や業務の難易度等から3社は繋がらず、1社においては見積り提出まで行ったが、作業取得には至らなかった。 ・生活介護では、新たな取り組みということもあり、場所の使い方や活動内容など日々検討しながら取り組んできた。まだ、課題が残っている状況ではあるが、段ボールを使った個室（スペース）作りなどを行い、落ち着いて過ごせるよう工夫を行った。今後につなげていく。また、利用者確保においては、地区の相談から1件、嶺北特別支援学校の保護者見学の受入れ、実習1名受け入れを行い、令和2年度から1名利用へと繋がった。 ・リサイクル作業場の暑さ対策としてミストファン3台導入。 ・事業所内事務所にしかなかった電話・ネット環境等を整備し、各現場（施設外・介護・B型）で電話対応等が出来るように改善した。 ・事務所内のレイアウト変更し、職員と利用者スペースの区分および、全職員が近くになるよう配置するなど、場所の明確化・話がしやすい配置の工夫を行った。 <p>【重点施策】</p> <p>① 目標10名に対し、実績9名。定期面談実施については、3ヶ月を超えた方もいるが、必要に応じ2か月に1回行うなど概ね目標通りに進捗できた。また、1名については、A型での従事作業増に取り組み、従事できるまでに育成が出来たため、面談は未実施となった。以上の結果3名が当事業所B型へ、別法人へ1名となった。来年度も継続して実施。</p>

② 利用者の特性に合わせた、魅力のある活動計画の立案と実施

(多種多様なプログラム作成および活動内容の充実)

生活介護

外部講師を招いての活動の実施 月1回

B型事業

所外活動の取り組み 月1回

③ 新規利用者確保に向け、特別支援学校へ定期的に訪問する。(3ヵ月に1回)

④ A型、B型の事業種の拡大を図る。A型については、坂井市(丸岡町)からの空き缶取得、B型については従来の取引各社への作業量増加の依頼交渉を実施。(3ヵ月に1回)

⑤ 事業拡大に合わせて、職員の資質向上に取り組むために研修へ積極的に参加する。(主に生活介護に関する研修の受講を全職員2回以上)

②職員で自立課題を創作するなどプログラム編成の充実を図った。まだ多種多様とまでとはならないので、今後も引き続き実施する。また、毎月、音楽教室として講師の方に来ていただき実施。利用者の方の楽しみ・活動として定着してきた。

B型：目標年12回に対し7回実施と未達成。特に冬季期間は所外に出ることが少なくなりました。理由としては、所外活動ではなく、作業をしたいというニーズが多々あり、作業重視となった。全員での活動の必要性も伝えながら内容を考え継続して行いたい。

③4月、8月、11月、1月に訪問。その他5月11月と実習生を受け入れたため、進路担当先生の訪問があり、年間通して進路担当先生と話す機会を設けることが出来た。(4月よりB型1名、生活介護1名利用開始)

④坂井市へ、現在は空缶が搬入できていない丸岡町分の搬入願いを行う(4月、9月、12月)が、市の財源となっていることから、その部分は難しいという結果になった。

また、B型作業については、糸吸い作業取引業者とは、2か月に1度程度、打ち合わせ実施。新たな作業取得や現作業量のUPにはならなかった。糸貫作業取引業者には11月担当者が訪問し、作業手法等についてアドバイスをいただく。その後、2月ごろより作業量が1.5倍程度増。

⑤約25回の研修・セミナー等に参加。職員・嘱託8名とも2回以上の研修へ参加。特に生活介護担当者においては、レクレーションや視覚的コミュニケーションなど専門的な研修へ参加いただき資質向上に取り組む。結果、生活介護での自立課題作成等を行うことが出来た。

2. 目標平均利用者数

事業内容	定員	30年度	31年度
就労継続支援 A型	14名	18名	18名
就労継続支援 B型	10名	新設	10名
生活介護	10名	6名	10名
たつかわ寮	5名	5名	5名

3. 個別事業の説明

【就労継続支援A型】

〈リサイクル〉

①市からの搬入量の減少が年々続いていることから、増加にむけ各行政機関に新規入荷交渉を継続して6月・9月・12月に実施し、また、それにともない、新規事業の検討を行う。

②自社回収方法について、現ルートの費用対効果の見直しを行い、自社回収から業者の持ち込みへと手法の転換を図る。

〈施設外就労〉

・新たな従事社員を養成し、配置転換を図ることにより、作業効率の向上を行う。(新規従事者2名)

【就労継続支援B型】

①新たな事業となるので、プログラムの充実を図る。月に1回の所外活動では、近隣市町で、地域に触れあう場所に生き、見聞を広める

(金津創作の森、三国海浜自然公園、トリムパークかなづ、あわら青年の家)

②軍手の販売先については市町行政への商談、製造原価の削減に取り組む。主に材料の主糸については、品質が良好で安定したこと

2. 実績平均利用者数

事業内容	定員	31年度
就労継続支援 A型	14名	14.4名
就労継続支援 B型	10名	7.5名
生活介護	10名	4.6名
たつかわ寮	5名	4.1名

3. 個別事業の説明

【就労継続支援A型】

〈リサイクル〉

①4月9月12月に交渉を実施。搬入地区の拡大および住民への広報等を行政にお願いしていくが実現には至らず。購入単価については、次年度より両市とも1円/kg減額することはできた。

②自社回収から業者持ち込みについて、1社交渉を行うが、スチール缶だけの持ち込みという話であり、単価が折り合わず実現ならず。回収については、福井方面への回収を週1回などにし、効率化を図る。

〈施設外就労〉

新規従事者3名。2名については毎日従事できるまで養成することができた。しかし、現従事者2名が能力低下等により従事することが出来なくなったので、今後も従事者増を引き続き行う。

【就労継続支援B型】

①所外活動としては、目標12回に対し7回実施(トリムパークかなづのみ実行出来たが、金津創作の森、三国海浜自然公園、あわら青年の家は未実施)と未達成。特に冬季期間は所外に出ることが少なくなってしまった。理由としては、所外活動ではなく、作業をしたいというニーズが多々あり、作業重視となった。全員での活動の必要性も伝えながら内容を考え継続して行いたい。

②市町への商談では、各福祉課へ相談。坂井市では、市役所内で回覧する施設製造物品一覧に掲載を依頼。掲載となったがそれによる新規注文はな

から、さらに不良品減少（5%削減）を行い、販売単価の見直しも行う。

【生活介護】

・事業統合により新たな利用者が増えたことにより、利用者に合わせたプログラム編成を行う。

・特別支援学校の学年毎の生徒数の割合、市町の割合及びニーズの調査を実施し、利用者確保計画の見直しを行い利用者確保に努める。（4月・9月）

【グループホーム】

〈たつかわ寮〉

・余暇活動支援の充実を寮生の希望を聞きながら実施するとともに、交通機関を利用し、自分で買い物に行くことが出来るように支援する。（4か月に1回）

かったが、役所内での周知拡大にはつなげた。あわら市ではスポーツ大会の景品として17千円ではあったが新規受注あり。また、不良率については、前年比4%減と目標には届かなかったが、製造工程の見直しを行い、1日の製造数130%UPとなる。（100ダースから130ダース）。販売単価の見直しも行ったが、価格的に受注には結びつかなかったので、原価を安くし、単価を抑える方向にシフト。現在も継続中。

【生活介護】

・職員で自立課題を創作するなどプログラム編成の充実を図った。まだ多種多様とまでとはならないので、今後も引き続き実施する。また、毎月、音楽教室として講師の方に来ていただき実施。利用者の方の楽しみ・活動として定着してきた。

・4月に嶺北特別支援学校の学校要覧を取得。それを基に進路担当先生と協議を行う。あわら市内生徒高等部9名に対し、元年度は2年=2名、3年=2名の計4名実習受け入れ。内2名翌年度より利用となる。坂井市は生徒数が多いので、坂井市も含めて利用につながるよう今後も継続して実施していく。

【グループホーム】

〈たつかわ寮〉

・目標は年3回だったが、年6回実施。小浜事業所主催のバーベキューや、県主催の障スポへの参加など新たなことに参加が出来た。また、11月には公共交通機関を利用して買い物、ポーリングを実施。市内ショッピングセンターには初めて来たという方が多く、見聞を広める。食事はみなさんの希望の場所に行くことが出来たので、今後も新しいことを取り入れていきたい。

令和元年度事業計画	令和元年度事業実績
<p>1.目標と重点施策</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動内容の充実を図ると共に、分かりやすい個別支援計画を作成し、実現可能な計画の進捗を管理する。これにより、利用者増に繋げる。 ・利用者・職員共に過ごしやすい環境づくりに重点を置き、快適・安全な職場と、利用者や地域から選ばれる施設を目指す。 <p>【重点施策】</p> <p>① 活動内容の充実 音楽活動、笑ヨガ等で講師を招いた活動を充実させる。施設商品の充実や、リハビリ活動、入浴サービスにより、個々の利用者ニーズに応える。</p> <p>② 利用者の増 活動内容や入浴サービスの充実をPRし利用者増を目指す。</p> <p>③ 個別支援計画の具現化 生活介護・グループホーム共に、利用者にも支援員にも分かりやすい、実現可能な計画に見直し、進捗管理しやすいものとする。</p> <p>④ 職員の資質向上 研修参加・資格取得を促し、知識と介護技術の向上を図る。</p> <p>⑤ 快適な施設づくり 安全で綺麗な環境を整え快適な施設づくりを目指す。</p>	<p>1.目標と重点施策</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者自身が活動内容を選択できるよう、一部の利用者には絵カードを用いて選択してもらい、木工作业や内職作業など個別の軽作業も入れながら活動内容の充実に取り組んだ。個別支援計画を見直すとともに個人目標シートを作成し達成量を視覚化できるようにした。 ・施設巡回を3ヵ月毎に行ない、快適・安全な職場づくりを目指しカーペットの張替えや手すりの設置等の改善に取り組んだ。 <p>【重点施策】</p> <p>①それぞれの講師を招き、笑いヨガ<年5回>、音楽療法<年2回>健康講座<年3回>を実施した。</p> <p>②パンフレットを用いて、特別支援学校や相談支援専門員に活動内容や入浴サービスの充実をアピールする。 入浴サービス提供実員は1年前と比較して4名から、7名に増加。延べ利用者数は、関係機関連携と個別面談を積極的に実施し、30年度5,286人→31年度5,492人に増。</p> <p>③支援計画と連動する内容で、個人目標シートを新たに作成し、目標達成した数量のシールを貼るなど視覚化し、分かりやすくした。</p> <p>④介護福祉士国家資格に1名合格。 各研修に全職員1回以上参加した。</p> <p>⑤美化に努め、施設定期巡回等をとおして不良個所の改善に取り組んだ。</p>

2.目標平均利用者数

事業内容	定員	30年度	31年度
生活介護	20名	20.0名	21.1名
グループホーム	7名	7名	7名

3.個別事業の説明

【生活介護】

①不定期でしていた笑ヨガの講師を招き2ヶ月毎に定期実施する。〈年6回〉

音楽活動で講師を招いた充実した内容を取り入れる。〈年3回〉

創作活動での施設商品の充実や、個別活動でのリハビリの時間を増やすなど、個々の利用者ニーズに少しでも多く応えられるようにプログラムを変更していく。

②上記、活動内容の充実や今年度から入浴サービス提供を充実させたことを、地域（特別支援学校・行政・相談支援等）や保護者面談等でPRし、利用者増の働きかけを行う。

〈特別支援学校・行政等PR訪問 年2回以上〉

③個別支援計画の作成においては、ケース会議等を重ね、数値目標を入れるなど、実現可能な計画に見直していく。

〈ケース会議 月1回〉

利用者にも支援員にも分かりやすい、進捗管理しやすいものとする。

④職員を全員年1回以上研修に参加させ、毎月1回開催の所内会議にて伝達講習を行い、支援力の向上を図る。

⑤施設の定期巡回を実施し、危険箇所等の改善を行い安全な施設にすると共に、清掃や掲示物等を整え美化に努め、清潔で快適な施設づくりを行う。

〈施設定期巡回 毎月1回、避難訓練年4回〉

【グループホーム】

①土日希望制により、寮の受入れにより余暇活動にクッキングの取り入れや地域行事への参加を促し、寮生活の充実を図る。

〈土日希望制 月2回〉

2.実績平均利用者数

事業内容	定員	31年度
生活介護	20名	20.3名
グループホーム	7名	7名

3.個別事業の説明

【生活介護】

①笑いヨガ〈年5回〉、音楽療法〈年2回〉健康講座〈年3回〉を実施した。

創作活動では木工作業を増やし、施設商品の品数も増やした。個別活動やリハビリなど、利用者が活動を選択できる機会を増やした。また、リハビリではペダル漕ぎの機械やバランスボールを新たに整備した。

① 特別支援学校・行政等の関係機関訪問を年2回実施した。また、相談支援事業所と連絡を頻繁にとり、新規利用者等の働きかけを行った結果、当年度新規1名（昨年度末にも新規1名）利用者を増やすことができた。

② 毎月1回実施の所内会議にケース会議も入れ、個別支援計画等について検討した。支援計画の見直しと合わせて新たに個別目標シートを作成し、シール等で達成量が目視できるようにした。

③ 全職員、年1回以上研修に参加し、都度毎月の所内会議にて伝達講習を行った。

④ 施設巡回を3ヵ月毎に行ない、危険箇所等の改善を行った。清掃や掲示物等を整え美化に努めた。

避難訓練は、年間4回目標どおりできた。

【グループホーム】

①土日の希望による寮の受け入れを継続実施した。余暇活動ではクッキングや地域行事や祭りに参加した。

〈土日希望制 平均月2回実施。但し、職員体制により9月～2月は一時中止した。〉

②定員に対して満床の為、満床を維持すると共に、土日希望制利用により利用率の向上を図る。〈現員 7名〉

③個別支援計画の作成においては、ケース会議等を重ね、数値目標を入れるなど、実現可能な計画に見直していく。〈ケース会議 月1回〉利用者にも支援員にも分かりやすい、進捗管理しやすいものとする。

④職員を全員年1回以上研修に参加させ、毎月1回開催の所内会議にて伝達講習を行い、支援力の向上を図る。

⑤美化と清潔で快適な寮を維持すると共に、避難訓練を重ねて災害時対応を充実させる。
〈避難訓練 年6回〉

②現員7名を維持。延べ利用者数は、30年度2,130人→31年度2,030人

③毎月1回実施の所内会議にケース会議も入れ、個別支援計画等について検討した。支援計画の見直しと合わせて新たに個別目標シートを作成し、シール等で達成量が目視できるようにした。

④全職員、年1回以上研修に参加し、都度毎月の所内会議にて伝達講習を行った。

⑤美化と清潔に努めると共に、床のへこみや障子の破れ、防護柵の設置等不良個所の改善に努めた。
避難訓練は目標どおり年6回実施した。

令和元年度事業計画	令和元年度事業実績
<p>1. 目標と重点施策</p> <p>2.</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社員の適性配置を行い、収支の健全化を目指す。 <p>【重点施策】</p> <p>①事業収支の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料費・労務費等毎月提示した予算の範囲内で管理を行う。 ・業務に対して社員を適正な人数で業務を行う。 <p>社員 16 名 (楽市 5 名 スイーツ 5 名 ケーキ製造 2 名 ベイク 4 名)</p> <p>②B 型事業の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事量の確保 (年間を通して安定した業務を行えるように、1 社だけでなく受託先を増やす) ・過ごしやすい環境整備の構築 (危険箇所を毎月の安全パトロールで改善していく) <p>③受託作業の安定した出荷量の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受託で請け負っているクッキー製造・ケーキ製造においてクレームゼロを目指す。 ・注文個数から、社員の加配とならないよう行い、収益の黒字化を目指す。 ・適切な契約を締結する。 	<p>1.目標と重点施策</p> <p>【目標】</p> <p>適正配置にむけて保護者との調整を重ね、令和2年3月末で1名就労継続B型への異動。令和2年4月末で1名他法人への異動を行う。また、楽市と丹南どちらも作業が行えるよう利用者育成に2名取り組んでいる。</p> <p>30年度労務費 22,586千円/年 → 31年度労務費 18,949千円/年</p> <p>【重点施策】</p> <p>①事業収支の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の材料費については、各担当者に予算を伝え発注する際には厳守させたが、労務費については行っていない。 <p>材料費率 31年度予算 44% → 実績 47% 達成できなかった理由として、材料費のかからないケーキ受託を予算時には計画していたが、発注が来ないため、材料費の高いベイク事業を継続して行った事により、材料費率が上がる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社員の適正な人数に関しては目標通り社員16名で行えた。(楽市5名 スイーツ5名 ケーキ製造2名 ベイク4名) <p>②B 型事業の確立・仕事量の確保</p> <p>1社(ウラセ株)しか交渉をすることができなかった。新規の作業は獲得できていない。就労継続支援A型の外商販売業務を、B型事業へ移行するため引継ぎの準備を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月安全パトロールを行い、所内会議にて報告を行う。ヒヤリハット箇所を会議で協議し次回の改善に努めた。令和元年度は作業事故ゼロとなる。 <p>③受託で新たに請け負ったクッキーにおいて、数か所割れているクレームが1件入る。梱包の方法を変更し割れずに納品ができるようになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受託ケーキの注文個数が少ないため、ベイク事業を減らすことなく取り組んだ。 ・ケーキ製造において顧問弁護士に確認をもらい契約を締結し作業に取り掛かった。

2. 目標平均利用者数

事業内容	定員	30年度	31年度
就労継続支援 A型	20名	19.8名	16名
就労継続支援 B型	10名	-	7名

3. 個別事業の説明

【就労継続支援A型】

<スイーツ>

- ・新規事業（ケーキ製造）を確立させる。
（材料仕入れ・製造・包装・出荷・配送・管理）

<楽市>

- ①商品の簡略化（種類を減らす）を行い、社員中心で製造業務が行えるよう移行していく。それに伴い社員6名から5名で行えるようにする。
- ②新商品の製造開発を行う。

<バイク>

- ①スイーツの作業数の増加に伴い、バイク事業を縮小していく。
- ②予算を発注担当者に提示し、材料費支出が予算を上回らないよう厳守を行う。

【就労継続支援B型】

<全体>

- ・作業を安定して行うことができ、また、余暇活動を月2回以上行うことで、利用者の方が、楽しい、毎日利用したいと思えるよう事業運営を行う。

2.実績平均利用者数

事業内容	定員	31年度
就労継続支援 A型	20名	15.5名
就労継続支援 B型	10名	3.9名

3. 個別事業の説明

【就労継続支援A型】

<スイーツ>

- ・ケーキ製造の受注が取引先と口頭で話していた額より大幅に少なかった。

ケーキ：予算 250千円/月 実績 50千円/月
 予算より少ない分、バイク事業を継続して収入の確保に努める。

バイク：予算 400千円/月 実績 750円/月

<楽市>

- ①当初種類を減らし、社員がより主力になるよう働きかけたが、売り上げが徐々に減少したため急速計画を変更し10月から種類を増やし売り上げ維持を優先した。
- ②毎月、敷島製パンの方をお呼びし新作の開発を行った。

<バイク>

- ①当初縮小を検討していたが、ケーキの収入減により、計画を変更し生産を現状維持とした。
- ②材料費率 31年度予算44% → 実績47%
 達成できなかった理由として、材料費のかからないケーキ受託を予算時には計画していたが、発注が来ないため、材料費の高いバイク事業を継続して行った事により、材料費率が上がる。

【就労継続支援B型】

<全体>

- 安全衛生点検 毎月1回/月
- 余暇活動 平均1.6回/月（月2回を予定していたが、作業の受注量が多い際には、業務を優先して行ったため予定回数より下回る月があった。）
- 平均利用率 96%

<p><営農></p> <ul style="list-style-type: none"> ・社員への刈払機取扱い作業安全衛生教育を受講し、刈払機が使用できるようにし、草刈の作業獲得増に向けて取り組む。取得者2名を目標とする。 <p><受託></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して安定して作業を頂けるよう営業に出向き、新規作業を獲得する。 	<p><営農></p> <p>2名刈払機の練習を何度か行うが、2名の利用者には難易度が高いと判断したため、刈払機の使用を断念する。</p> <p><受託></p> <p>ウラセ(株)しか営業を行っておらず、新規作業は獲得できていない。就労継続支援A型の外商販売業務を、就労継続支援B型事業へ移行するため、引継ぎの準備を行う。</p>
--	--

令和元年度 決算報告

1	令和元年度 決算報告（令和元年度現計予算との比較）	1
2	令和元年度 決算報告	
	本部・相談	2
	福井事業所	3
	若狭事業所	4
	丸岡南中事業所	5
	おくえつ事業所	6
	あわら事業所	7
	小浜事業所	8
	丹南事業所	9



令和元年度 決算報告(令和元年度現計予算との比較)

(単位:千円)

科目	合計			本部			福井			若狭			丸岡			おくえつ			あわら			小浜			丹南			港(公益・収益)				
	R1現計予算	R1決算	達成率	R1現計予算	R1決算	達成率	R1現計予算	R1決算	達成率	R1現計予算	R1決算	達成率	R1現計予算	R1決算	達成率	R1現計予算	R1決算	達成率	R1現計予算	R1決算	達成率	R1現計予算	R1決算	達成率	R1現計予算	R1決算	達成率	R1現計予算	R1決算	達成率		
就労支援事業等収支	収入	事業収入(弁当・パンなど)	336,394	324,667	97%	0	0	-	39,214	38,672	99%	116,273	111,264	96%	67,665	65,259	96%	31,889	32,808	103%	34,795	31,925	92%	0	0	-	46,558	44,739	96%	0	0	-
		①収入計	336,394	324,667	-	0	0	-	39,214	38,672	-	116,273	111,264	-	67,665	65,259	-	31,889	32,808	-	34,795	31,925	-	0	0	-	46,558	44,739	-	0	0	-
	支出	材料費	138,484	138,964	100%	0	0	-	11,913	11,474	96%	59,914	58,292	97%	28,957	29,069	100%	7,428	8,818	119%	11,726	11,779	100%	0	0	-	18,546	19,532	105%	0	0	-
		労務費(社員等)	151,202	152,816	101%	0	0	-	20,388	24,766	121%	41,490	35,022	84%	25,996	26,753	103%	17,700	16,757	95%	21,854	21,810	100%	0	0	-	23,774	27,708	117%	0	0	-
		事業経費	78,016	73,809	95%	0	0	-	10,290	9,233	90%	20,414	24,852	122%	17,181	13,834	81%	7,214	7,303	101%	6,714	5,163	77%	0	0	-	16,203	13,424	83%	0	0	-
②支出計	367,702	365,589	-	0	0	-	42,591	45,473	-	121,818	118,166	-	72,134	69,656	-	32,342	32,878	-	40,294	38,752	-	0	0	-	58,523	60,664	-	0	0	-		
③収支差額小計(①-②)	△ 31,308	△ 40,922	-	0	0	-	△ 3,377	△ 6,801	-	△ 5,545	△ 6,902	-	△ 4,469	△ 4,397	-	△ 453	△ 70	-	△ 5,499	△ 6,827	-	0	0	-	△ 11,965	△ 15,925	-	0	0	-		
福祉事業等収支	収入	障害福祉サービス等事業収入	572,511	575,286	100%	4,403	3,877	88%	135,599	132,944	98%	146,989	149,917	102%	59,508	59,837	101%	53,485	55,110	103%	60,461	60,178	100%	79,463	78,611	99%	32,603	34,812	107%	0	0	-
		④収入計	572,511	575,286	-	4,403	3,877	-	135,599	132,944	-	146,989	149,917	-	59,508	59,837	-	53,485	55,110	-	60,461	60,178	-	79,463	78,611	-	32,603	34,812	-	0	0	-
	支出	人件費(職員等)	360,973	356,928	99%	37,003	36,013	97%	76,723	76,059	99%	89,704	88,130	98%	33,851	35,774	106%	31,631	32,149	102%	39,042	37,087	95%	31,123	32,136	103%	21,896	19,580	89%	0	0	-
		運営管理費	185,394	174,888	94%	25,004	21,920	88%	45,679	44,949	98%	38,726	36,438	94%	15,168	15,465	102%	17,067	15,098	88%	17,024	16,221	95%	20,081	18,910	94%	6,645	5,887	89%	0	0	-
		⑤支出計	546,367	531,816	-	62,007	57,933	-	122,402	121,008	-	128,430	124,568	-	49,019	51,239	-	48,698	47,247	-	56,066	53,308	-	51,204	51,046	-	28,541	25,467	-	0	0	-
⑥収支差額小計(④-⑤)	26,144	43,470	-	△ 57,604	△ 54,056	-	13,197	11,936	-	18,559	25,349	-	10,489	8,598	-	4,787	7,863	-	4,395	6,870	-	28,259	27,565	-	4,062	9,345	-	0	0	-		
⑦事業活動による収支(③+⑥)	△ 5,164	2,548	-	△ 57,604	△ 54,056	-	9,820	5,135	-	13,014	18,447	-	6,020	4,201	-	4,334	7,793	-	△ 1,104	43	-	28,259	27,565	-	△ 7,903	△ 6,580	-	0	0	-		
その他活動収支	収入	雇用調整金収入	76,126	75,316	99%	0	0	-	10,500	10,624	101%	19,665	18,261	93%	12,200	12,262	101%	12,381	12,791	103%	9,860	9,831	100%	0	0	-	11,520	11,547	100%	0	0	-
		その他活動収入(売電等)	37,533	51,410	137%	0	3,079	-	600	3,629	605%	2,357	5,271	224%	1,637	3,805	232%	29,539	29,609	100%	0	468	-	1,200	1,900	158%	200	282	141%	2,000	3,367	168%
		⑧収入計	113,659	126,726	-	0	3,079	-	11,100	14,253	-	22,022	23,532	-	13,937	16,067	-	41,920	42,400	-	9,860	10,299	-	1,200	1,900	-	11,720	11,829	-	2,000	3,367	-
	支出	借入金元金償還金支出	56,134	56,344	100%	13,920	13,992	101%	7,512	7,512	100%	16,328	16,097	99%	9,684	9,684	100%	4,130	4,119	100%	2,880	2,880	100%	864	864	100%	816	1,196	147%	0	0	-
		固定資産取得支出	30,091	28,060	93%	9,800	10,039	102%	0	0	-	7,410	6,641	90%	500	398	80%	350	330	94%	9,990	9,635	96%	1,697	1,017	60%	344	0	0%	0	0	-
		固定資産廃棄支出	3,193	3,192	100%	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	3,193	3,192	100%	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
		支払利息	4,358	4,412	101%	98	98	100%	1,204	1,204	100%	983	943	96%	1,537	1,537	100%	96	191	199%	277	277	100%	84	83	99%	79	79	100%	0	0	-
その他支出(退職掛金等)	5,656	10,759	190%	446	649	146%	875	2,198	251%	880	2,347	267%	200	861	431%	192	287	149%	370	501	135%	320	322	101%	250	229	92%	2,123	3,365	159%		
⑨支出計	99,432	102,767	-	24,264	24,778	-	9,591	10,914	-	25,601	26,028	-	11,921	12,480	-	7,961	8,119	-	13,517	13,293	-	2,965	2,286	-	1,489	1,504	-	2,123	3,365	-		
⑩収入計(⑧+⑨)	1,022,564	1,026,679	-	4,403	6,956	-	185,913	185,869	-	285,284	284,713	-	141,010	141,163	-	127,294	130,318	-	105,116	102,402	-	80,663	80,511	-	90,881	91,380	-	2,000	3,367	-		
⑪支出計(②+⑤+⑨)	1,013,501	1,000,172	-	86,271	82,711	-	174,584	177,395	-	275,849	268,762	-	133,074	133,375	-	89,001	88,244	-	109,877	105,353	-	54,169	53,322	-	88,553	87,635	-	2,123	3,365	-		
⑫収支差額小計(⑩-⑪)	9,063	26,507	-	△ 81,868	△ 75,755	-	11,329	8,474	-	9,435	15,951	-	7,936	7,788	-	38,293	42,074	-	△ 4,761	△ 2,951	-	26,494	27,179	-	2,328	3,745	-	△ 123	2	-		

本部・相談支援事業 令和元年度 決算報告

単位：千円

科目		本部						相談						
		年間予算	R元年度執行	年間予算 達成率	昨年度予算	昨年度執行	昨年度 達成率	年間予算	R元年度執行	年間予算 達成率	昨年度予算	昨年度執行	昨年度 達成率	
就労支援事業等収支	収入	事業収入												
		①収入計												
	支出	材料費												
		労務費（社員等）												
		事業経費												
		②支出計												
③収支差額小計（①-②）														
福祉事業等収支	収入	障害福祉サービス等事業収入	4,203	3,877	92%	6,707	7,364	110%	6,006	8,463	141%	7,228	6,109	85%
		④収入計	4,203	3,877	-	6,707	7,364	-	6,006	8,463	-	7,228	6,109	-
	支出	人件費（職員等）	37,003	36,013	97%	38,171	38,424	101%	15,841	12,956	82%	10,647	7,228	68%
		運営管理費	25,004	21,920	88%	27,688	26,940	97%	1,458	1,224	84%	120	13	11%
		⑤支出計	62,007	57,933	-	65,859	65,364	-	17,299	14,180	-	10,767	7,241	-
	⑥収支差額小計（④-⑤）		△ 57,804	△ 54,056	-	△ 59,152	△ 58,000	-	△ 11,293	△ 5,717	-	△ 3,539	△ 1,132	-
⑦収支（③+⑥）		△ 57,804	△ 54,056	-	△ 59,152	△ 58,000	-	△ 11,293	△ 5,717	-	△ 3,539	△ 1,132	-	

	本部	相談支援
令和元年度 決算について	<p>事業収入…太陽光の売電収入について、予算計上時より大幅に減少した。理由としては、12月分から売電単価が下がったこと、機器の老朽化等により売電量が減少したことによる。</p> <p>運営管理費…業務委託費について、CNET福祉システムの改修を予定していたが、2年度に繰り越すことになったため。約1,000千円削減。</p> <p>広報費について、求人募集の広告を掲載する予定であったが、ハローワークの求人募集により中途採用することができたので、有料の広告掲載はしなかった。約300千円削減。</p>	<p>・障害福祉サービス等事業収入… 福井相談 予算 1,920千円→実績 3,271千円 若狭相談 予算 956千円→実績 1,455千円 あわら相談 予算 3,129千円→実績 3,737千円</p> <p>・福井相談とあわら相談の相談支援専門員を1.5名ずつ配置し、委託相談支援事業所からの計画作成依頼に対応した結果、予算対比170%、120%となった。</p> <p>・若狭相談については、他の嶺南地区の相談支援事業所と連携を取ってきた結果、計画作成依頼が増え、予算対比150%となった。</p>
次年度に向けて	<p>・中長期計画（事業展開・人材確保・建物等）の立案・策定を行い、先を見据えた取り組みを実施する。</p> <p>・支援費収入、材料費支出を重点項目とし、予算進捗管理を行う。</p>	<p>・多様なサービスに対応できるよう関係機関との連携を図る。</p> <p>・研修及び各地区の自立支援協議会に参加し、毎月実施の相談支援連絡会にて情報共有することにより各相談支援専門員のレベルアップを図る。</p>

福井事業所 令和元年度 決算報告

単位：千円

科目	就労継続A型						就労継続B型					生活介護					グループホーム								
	年間予算	R元年度執行	年間予算達成率	昨年度予算	昨年度執行	昨年度達成率	年間予算	R元年度執行	年間予算達成率	昨年度予算	昨年度執行	昨年度達成率	年間予算	R元年度執行	年間予算達成率	昨年度予算	昨年度執行	昨年度達成率	年間予算	R元年度執行	年間予算達成率	昨年度予算	昨年度執行	昨年度達成率	
就労支援事業等収支	収入	事業収入	39,214	38,672	99%	54,758	48,598	89%																	
		①収入計	39,214	38,672	-	54,758	48,598	-																	
	支出	材料費	11,913	11,474	96%	21,666	15,148	70%																	
		労務費(社員等)	20,388	24,766	121%	29,128	34,152	117%																	
		事業経費	10,290	9,233	90%	15,151	13,853	91%																	
	②支出計	42,591	45,473	-	65,945	63,153	-																		
	③収支差額小計(①-②)	△ 3,377	△ 6,801	-	△ 11,187	△ 14,555	-																		
福祉事業等収支	収入	障害福祉サービス等事業収入	29,964	29,550	99%	38,046	39,985	105%					56,077	55,745	99%	84,440	77,225	91%	47,638	44,378	93%	76,219	66,044	87%	
		④収入計	29,964	29,550	-	38,046	39,985	-					56,077	55,745	-	84,440	77,225	-	47,638	44,378	-	76,219	66,044	-	
	支出	人件費(職員等)	15,079	14,629	97%	21,739	18,796	86%					27,749	26,876	97%	32,700	32,727	100%	29,816	28,867	97%	30,906	26,889	87%	
		運営管理費	5,912	6,819	115%	8,691	8,280	95%					17,234	16,488	96%	22,866	22,348	98%	21,882	20,745	95%	28,604	27,687	97%	
		⑤支出計	20,991	21,448	-	30,430	27,076	-					44,983	43,364	-	55,566	55,075	-	51,698	49,612	-	59,510	54,576	-	
	⑥収支差額小計(④-⑤)	8,973	8,102	-	7,616	12,909	-					11,094	12,381	-	28,874	22,150	-	△ 4,060	△ 5,234	-	16,709	11,468	-		
	⑦収支(③+⑥)	5,596	1,301	-	△ 3,571	△ 1,646	-					11,094	12,381	-	28,874	22,150	-	△ 4,060	△ 5,234	-	16,709	11,468	-		

科目	事業所 合計							
	年間予算	R元年度執行	年間予算達成率	昨年度予算	昨年度執行	昨年度達成率		
就労支援事業等収支	収入	事業収入	39,214	38,672	99%	54,758	48,598	89%
		①収入計	39,214	38,672	-	54,758	48,598	-
	支出	材料費	11,913	11,474	96%	21,666	15,148	70%
		労務費(社員等)	20,388	24,766	121%	29,128	34,152	117%
		事業経費	10,290	9,233	90%	15,151	13,853	91%
	②支出計	42,591	45,473	-	65,945	63,153	-	
	③収支差額小計(①-②)	△ 3,377	△ 6,801	-	△ 11,187	△ 14,555	-	
福祉事業等収支	収入	障害福祉サービス等事業収入	133,679	129,673	97%	198,705	183,254	92%
		④収入計	133,679	129,673	-	198,705	183,254	-
	支出	人件費(職員等)	72,644	70,372	97%	85,345	78,412	92%
		運営管理費	45,028	44,052	98%	60,161	58,315	97%
		⑤支出計	117,672	114,424	-	145,506	136,727	-
	⑥収支差額小計(④-⑤)	16,007	15,249	-	53,199	46,527	-	
	⑦収支(③+⑥)	12,630	8,448	-	42,012	31,972	-	

	就労継続A型	生活介護	グループホーム
令和元年度 決算について	<p><就労支援事業支出></p> <ul style="list-style-type: none"> ・労務費については予算では20,388千円と計画していたが実績24,766千円となった。理由として社員2名の他のサービスへ移行予定であったが保護者と面談したが進まなかったため。 ・事業経費については予算では10,290千円と計画していたが実績9,233千円となった。理由として修繕費に予算計上していたが、食品機械の修理が少なかったため。 <p><福祉事業収支></p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営管理費については年間予算では5,912千円と計画していたが実績では6,819千円となった宿泊訓練の利用者が減少のため按分率を変更したため。 ・事務費の雑費については社員の異動に伴い、退職給付引当金を計上したため。 	<p><生活介護></p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部の講師を招きミュージックケアを活動に取り入れ、利用者全員で参加した。音楽を楽しんだり、手遊びしたり、楽器作りを行ったりと、充実感が味わえる活動ができた。 <日中一時> ・特別支援学校へ年4回の訪問を行い、ポスター・パンフレットを配布してアピールを行った。 	<p><障害福祉サービス等事業収入>予算では47,638千円と計画していたが、実績は 44,378千円となった。理由としては、宿泊型自立訓練とGHにおいて重度・高齢利用者の将来を見据えた他のサービスの移行を進めており、宿泊型自立訓練(入所施設2名・地域移行2名)グループホーム(高齢者施設2名・地域移行2名)その方であったサービスへ移行したため減収となった。</p>
次年度に向けて	<p><就労支援事業収入></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の販売ルート上の企業、公民館、児童館等にチラシを配布し担当のアピールをし、売上の向上を図る。 ・年中安定した収入を確保するために新たな作業種の確保を行う。 ・社員の障がい程度や能力に応じた適切なサービスへの移行を行う。(移行対象3名) 	<p><生活介護></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護利用日数が少ない利用者に対し事業所のアピールを行い、利用日数をふやせるよう電話連絡及び送迎時に保護者に説明をする。 ・平均利用25名を目標に毎日利用できない方も1日でも利用を増やしたいと思っていただけるよう、利用者のニーズやそれぞれの障がいの特性に応じたグループ毎の活動プログラムを再編する。 <日中一時> ・土曜日や長時間利用の受け入れをしていけるよう、シフトを組み利用できるようにする。 	<p><宿泊型自立訓練・短期入所></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現利用者のニーズに応じた生活の場を確保し、地域生活へ移行をする。 <p><グループホーム></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢利用者・区分4以上の方に他法人の見学や体験を行い入所施設等へのサービスへの移行を進めていく。 ・自事業者や他事業所と連携を図り、A型社員を対象に利用希望を募って利用者を確保する。

若狭事業所 令和元年度 決算報告

単位：千円

科目	就労継続A型						就労継続B型						生活介護						グループホーム						
	年間予算	R元年度執行	年間予算達成率	昨年度予算	昨年度執行	昨年度達成率	年間予算	R元年度執行	年間予算達成率	昨年度予算	昨年度執行	昨年度達成率	年間予算	R元年度執行	年間予算達成率	昨年度予算	昨年度執行	昨年度達成率	年間予算	R元年度執行	年間予算達成率	昨年度予算	昨年度執行	昨年度達成率	
就労支援事業等収支	収入	113,315	108,148	95%	116,930	117,949	101%	2,958	3,116	105%															
	①収入計	113,315	108,148	-	116,930	117,949	-	2,958	3,116	-															
	支出	59,854	58,260	97%	68,226	63,922	94%	60	32	53%															
	②支出計	118,978	115,055	-	127,625	124,335	-	2,840	3,111	-															
	③収支差額小計(①-②)	△ 5,663	△ 6,907	-	△ 10,695	△ 6,386	-	118	5	-															
福祉事業等収支	収入	52,235	55,796	107%	49,380	57,148	116%	6,492	6,269	97%			29,758	30,548	103%	46,562	31,499	68%	57,548	55,850	97%	50,737	58,261	115%	
	④収入計	52,235	55,796	-	49,380	57,148	-	6,492	6,269	-			29,758	30,548	-	46,562	31,499	-	57,548	55,850	-	50,737	58,261	-	
	支出	35,529	35,710	101%	31,937	40,135	126%	6,003	6,004	100%			16,077	16,015	100%	22,422	19,111	85%	28,077	28,523	102%	24,622	23,152	94%	
	⑤支出計	47,728	46,360	-	48,042	52,654	-	8,035	7,065	-			23,120	22,466	-	34,219	29,032	-	45,286	46,737	-	40,359	40,762	-	
	⑥収支差額小計(④-⑤)	4,507	9,436	-	1,338	4,494	-	△ 1,543	△ 796	-			6,638	8,082	-	12,343	2,467	-	12,262	9,113	-	10,378	17,499	-	
⑦収支(③+⑥)	△ 1,156	2,529	-	△ 9,357	△ 1,892	-	△ 1,425	△ 791	-			6,638	8,082	-	12,343	2,467	-	12,262	9,113	-	10,378	17,499	-		

科目	事業所 合計						
	年間予算	R元年度執行	年間予算達成率	昨年度予算	昨年度執行	昨年度達成率	
就労支援事業等収支	収入	116,273	111,264	96%	116,930	117,949	101%
	①収入計	116,273	111,264	-	116,930	117,949	-
	支出	59,914	58,292	97%	68,226	63,922	94%
	②支出計	121,818	118,166	-	127,625	124,335	-
	③収支差額小計(①-②)	△ 5,545	△ 6,902	-	△ 10,695	△ 6,386	-
福祉事業等収支	収入	146,033	148,463	102%	146,679	146,908	100%
	④収入計	146,033	148,463	-	146,679	146,908	-
	支出	85,686	86,252	101%	78,981	82,398	104%
	⑤支出計	124,169	122,628	-	122,620	122,448	-
	⑥収支差額小計(④-⑤)	21,864	25,835	-	24,059	24,460	-
⑦収支(③+⑥)	16,319	18,933	-	13,364	18,074	-	

	就労継続A型	就労継続B型	生活介護	グループホーム
令和元年度 決算について	<ul style="list-style-type: none"> ・事業収入 予算比△5,167千円 【食品加工】 年度当初の予定では、大阪のスーパーから定期的に惣菜の注文がくる予定をしていたが、2回のスポット注文のみで終わり、継続した注文が入らなかった。また、ママストアの惣菜についても商品アイテムの拡充が少なかったため。売上予算比△7,432千円 【パン】 ・売れ筋調査を月2回行い定価販売率の悪い商品は廃止85%以上の商品は増産とした。 ・毎月第3火曜日を「パンの日」として焼き立てパン20%引きで顧客の購買意欲向上に努めた。 ・昨年度は火曜日は焼き立てパンを販売していなかったが今年度より再開した。 ・その他、新商品開発や商品ディスプレイ改装 売上予算比+4,794千円 【コンビニ】 ・火曜日の焼き立てパン再開による相乗効果等 売上予算比+478千円 【営業】 ・取引企業1社から定期的に作業依頼を受けていたが機械化や作業時期のタイミングが合わず受注減少 売上予算比△1,797千円 ・運営管理費 予算比△1,549千円 ・修繕費△400千円…機器の故障が少なかった等 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業収入 予算比+158千円 【製塩】 昨年度は鯖缶が流行し一時的にバックオーダーを抱えることもあったが、今年度は流行も終わり缶詰業者からの大量発注が減少したため 売上予算比△413千円 【内職作業】 冬季に一時的に多くの作業注文が入った。 売上予算比+106千円 ・事業経費 予算比+1,054千円 車検費用が300千円と高額となったため 開所初年度で予算の制度が甘く過大に計上されていた。 	<p>概ね予算通りの決算となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給付費収入 【生活介護】 新規利用者2名(新卒・中途)により予算比+428千円 【日中一時】 2月末よりコロナで学校休校で児童を受け入れ予算比+361千円 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営管理費 予算比+1,005千円 入浴施設のボイラーの入替を行ったうち修理に関わる費用200千円がGR修繕費で計上されたため 各部門間の費用負担の按分率を変更したため 【若狭事業所全体の取り組み】 ①関電との割引率の交渉を行い割引率向上8%→22% ②時間帯ごとの電気の使用量を分析し空調や機器の使用が一時期に集中しないようにすることで最大電力量(デマンド値)を抑え基本料金の削減 ③職員全員が特に空調の温度設定や入切をこまめに行い使用電力の削減 以上の効果により前年比1,785千円削減
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> 【食品加工】 ・ママストア惣菜アイテムの拡充 ・原価率を下げる 44%→40% 【ベーカリー】 ・原価率を下げる 50%→48% ・オリジナルパンの開発 ①社員が製造しやすいパン ②看板商品の開発 【コンビニ】 ・社員中心の店舗運営 レジ社員を増員 ・仕入れコスト削減 食品加工の商品アイテム増 【営業】 ・地域の農家へのチラシ等による営業を行い、受託作業の拡大を図る ・機器のメンテナンスを確実にし修繕費の削減 	<ul style="list-style-type: none"> 相談支援と連携をして利用者の確保を行う 【製塩】 ・安心安全な商品の提供 目標：クレームゼロ ・取引先拡大 19件→24件 【あじさい公園】 ・雨天時の作業の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 創作活動・健康維持活動の充実 ・絵画教室 ・DVDを用いたダンス 相談支援と連携をして利用者の確保を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 新規寮生の確保 ・在宅社員・保護者への案内 ・特別支援学校・相談支援との情報共有を図る 余暇支援の充実 ・月1回以上の余暇支援を行う

丸岡南中事業所 令和元年度 決算報告

単位：千円

科目	就労継続A型							就労継続B型							生活介護							グループホーム						
	年間予算	R元年度執行	年間予算達成率	昨年度予算	昨年度執行	昨年度達成率		年間予算	R元年度執行	年間予算達成率	昨年度予算	昨年度執行	昨年度達成率		年間予算	R元年度執行	年間予算達成率	昨年度予算	昨年度執行	昨年度達成率		年間予算	R元年度執行	年間予算達成率	昨年度予算	昨年度執行	昨年度達成率	
就労支援事業等収支	収入	事業収入	67,665	65,259	96%	69,426	69,857	101%																				
		①収入計	67,665	65,259	-	69,426	69,857	-																				
	支出	材料費	28,957	29,069	100%	31,527	34,192	108%																				
		労務費(社員等)	25,996	26,753	103%	27,534	28,235	103%																				
		事業経費	17,181	13,834	81%	16,967	15,183	89%																				
	②支出計	72,134	69,656	-	76,028	77,610	-																					
③収支差額小計(①-②)	△4,469	△4,397	-	△6,602	△7,753	-																						
福祉事業等収支	収入	障害福祉サービス等事業収入	42,468	42,959	101%	47,834	42,775	89%										10,124	8,835	87%		17,040	16,878	99%	17,517	17,523	100%	
		④収入計	42,468	42,959	-	47,834	42,775	-											10,124	8,835	-		17,040	16,878	-	17,517	17,523	-
	支出	人件費(職員等)	27,199	29,057	107%	30,516	30,621	100%											6,911	9,031	131%		6,651	6,717	101%	3,080	4,286	139%
		運営管理費	8,743	8,859	101%	8,525	7,604	89%											2,209	1,810	82%		6,425	6,606	103%	5,844	6,757	116%
		⑤支出計	35,942	37,916	-	39,041	38,225	-											9,120	10,841	-		13,076	13,323	-	8,924	11,043	-
	⑥収支差額小計(④-⑤)	6,526	5,043	-	8,793	4,550	-												1,004	△2,006	-		3,964	3,555	-	8,593	6,480	-
⑦収支(③+⑥)	2,057	646	-	2,191	△3,203	-												1,004	△2,006	-		3,964	3,555	-	8,593	6,480	-	

科目	事業所 合計							
	年間予算	R元年度執行	年間予算達成率	昨年度予算	昨年度執行	昨年度達成率		
就労支援事業等収支	収入	事業収入	67,665	65,259	96%	69,426	69,857	101%
		①収入計	67,665	65,259	-	69,426	69,857	-
	支出	材料費	28,957	29,069	100%	31,527	34,192	108%
		労務費(社員等)	25,996	26,753	103%	27,534	28,235	103%
		事業経費	17,181	13,834	81%	16,967	15,183	89%
	②支出計	72,134	69,656	-	76,028	77,610	-	
③収支差額小計(①-②)	△4,469	△4,397	-	△6,602	△7,753	-		
福祉事業等収支	収入	障害福祉サービス等事業収入	59,508	59,837	101%	75,475	69,133	92%
		④収入計	59,508	59,837	-	75,475	69,133	-
	支出	人件費(職員等)	33,851	35,774	106%	40,507	43,938	108%
		運営管理費	15,168	15,465	102%	16,578	16,171	98%
		⑤支出計	49,019	51,239	-	57,085	60,109	-
	⑥収支差額小計(④-⑤)	10,489	8,598	-	18,390	9,024	-	
⑦収支(③+⑥)	6,020	4,201	-	11,788	1,271	-		

	就労継続A型	グループホーム
令和元年度 決算について	<p>【就労支援事業等収支】 事業経費については、17,181千円を計画していたが、合計は13,834千円となった。要因としては、①電気代の削減…生活介護事業が異動したことで電気の使用量が減り、それと伴に基本料金も下がったため(▲590千円) ②修繕費の削減…厨房内床塗装を外注から事業所で実施をしたことと機械の掃除など日常の手入れを行い故障が起きなかったため(▲1,433千円) ③租税公課の削減…消費税の見込みが違ったため(▲1,112千円) 材料費については、材料費率 目標値40%に対して44%の結果となった。野菜仕入れ業者を1社増やし、仕入れ単価の交渉などの取り組みをおこなったが、大きな効果を得ることができなかった。</p> <p>【福祉事業等収支】 人件費については、27,199千円を計画していたが、合計29,057千円となった。1名が嘱託職員から職員となったため。</p>	<p>ハーツ丸岡ハイム・まち中ホームとも、5名ずつ利用され、収入・支出とも、ほぼ予算通りの進捗となった。</p>
次年度に向けて	<p>【就労支援事業等収支】 (収入) 事業の黒字化を目標に学校の長期休暇時および青年の家の閑散期に新たな仕事を確保し、収益の改善を行っていく (支出) 材料費については、他業者の見積もりを取るなど業者の選定を行っていく、支出の削減を行っていく</p>	<p>昨年度同様に当事業所の社員への利用を促すとともに法人内の他事業所と連携し、利用希望の情報などを共有して新規利用者確保を行っていく。</p>

おくえつ事業所 令和元年度 決算報告

単位：千円

科目	就労継続A型							就労継続B型					生活介護					グループホーム									
	年間予算	R元年度執行	年間予算達成率	昨年度予算	昨年度執行	昨年度達成率		年間予算	R元年度執行	年間予算達成率	昨年度予算	昨年度執行	昨年度達成率		年間予算	R元年度執行	年間予算達成率	昨年度予算	昨年度執行	昨年度達成率	年間予算	R元年度執行	年間予算達成率	昨年度予算	昨年度執行	昨年度達成率	
就労支援事業等収支	収入	28,505	29,886	105%	36,108	33,346	92%	3,384	2,922	86%																	
	①収入計	28,505	29,886	-	36,108	33,346	-	3,384	2,922	-																	
	支出	7,428	8,818	119%	9,568	8,628	90%	0	0	-																	
	②支出計	28,976	30,108	-	46,645	46,391	-	3,366	2,770	-																	
	③収支差額小計(①-②)	△471	△222	-	△10,537	△13,045	-	18	152	-																	
福祉事業等収支	収入	21,248	21,531	101%	38,868	37,449	96%	10,709	12,989	121%				13,319	13,105	98%	12,326	10,831	88%	8,209	7,485	91%	10,035	10,277	102%		
	④収入計	21,248	21,531	-	38,868	37,449	-	10,709	12,989	-				13,319	13,105	-	12,326	10,831	-	8,209	7,485	-	10,035	10,277	-		
	支出	12,839	13,414	104%	15,906	15,204	96%	5,868	6,042	103%				7,394	7,232	98%	6,163	4,583	74%	5,530	5,461	99%	5,208	4,196	81%		
	⑤支出計	20,468	20,194	-	27,623	26,495	-	9,294	9,047	-				11,222	10,735	-	10,386	7,463	-	7,714	7,271	-	8,077	6,570	-		
	⑥収支差額小計(④-⑤)	780	1,337	-	11,245	10,954	-	1,415	3,942	-				2,097	2,370	-	1,940	3,368	-	495	214	-	1,958	3,707	-		
⑦収支(③+⑥)	309	1,115	-	708	△2,091	-	1,433	4,094	-				2,097	2,370	-	1,940	3,368	-	495	214	-	1,958	3,707	-			

科目	事業所 合計						
	年間予算	R元年度執行	年間予算達成率	昨年度予算	昨年度執行	昨年度達成率	
就労支援事業等収支	収入	31,889	32,808	103%	36,108	33,346	92%
	①収入計	31,889	32,808	-	36,108	33,346	-
	支出	7,428	8,818	119%	9,568	8,628	90%
	②支出計	32,342	32,878	-	46,645	46,391	-
	③収支差額小計(①-②)	△453	△70	-	△10,537	△13,045	-
福祉事業等収支	収入	53,485	55,110	103%	61,229	58,557	96%
	④収入計	53,485	55,110	-	61,229	58,557	-
	支出	31,631	32,149	102%	27,277	23,983	88%
	⑤支出計	48,698	47,247	-	46,086	40,528	-
	⑥収支差額小計(④-⑤)	4,787	7,863	-	15,143	18,029	-
⑦収支(③+⑥)	4,334	7,793	-	4,606	4,984	-	

	就労継続A型	就労継続B型	生活介護	グループホーム
令和元年度決算について	<p>就労事業収入 食品加工：予算18,541千円 実績20,184千円 要因：豆腐部門において特売実施の回数や新規特売店を増やしたが売上げは予算対比91%となった。勝山市内の豆腐製造所が当事業所だけとなったこともあり学校や施設の受注販売が増加した。あげフェスなど積極的にイベントに参加した。(イベント・特売売上688千円 昨年度対比138%)</p> <p>農業：予算2,584千円 実績2,123千円 要因：水稲の目標収量は達成したが野菜類の生産販売が出来なかった。そのため収入が来だけなり予算対比83%となった。</p> <p>自動車組付け部門：予算7,380 実績7,554 要因：予算通り推移した。12月に新規組付け部品を1種類獲得することができた。</p> <p>就労事業支出 材料費：予算7,428千円 実績8,818千円 要因：給食材料費を@400円のところを@220円と誤ったため約1,000千円少なく予算に計上してしまっ。フィルムの一括購入を9月に行ったため予算対比119%となった。</p>	<p>就労事業収入 給食トレイ洗浄：予算500千円 実績456千円 要因：㈱アサヒフード様の給食トレイ洗浄作業は3月の学校休止に伴い予算対比91%となった。</p> <p>自動車部品組付け作業：予算2,884千円 実績2,466千円 要因：半数以上の利用者が組付け作業が初めてで予測より生産数が低かった。3月に受注量が減少した事もあり予算対比86%となった。工賃は目標22,000円に対して21,000円となった。</p> <p>就労事業支出 事業経費：予算1,518千円 実績759千円 要因：㈱フクダカへの部品数で按分した部品運搬費をA型自動車部品で支払った為に予算を大きく下回った。㈱フクダカ運搬費600千円/年</p> <p>福祉事業収入 要因：現員7名の予定をしていたが相談支援専門員との話し合いで生活介護希望の利用者がB型利用となった為に8名で事業を開始した。生産活動以外の活動を月1回取り入れる事で楽しみをもって通所出来るように取り組み出勤率向上にも努め予算対比121%となった。</p>	<p>福祉事業収入：予算13,319千円 実績13,105千円 要因：現員8名を予定していたが相談支援専門員との話し合いで生活介護希望の利用者がB型利用となった為に7名となったが1月に新規利用契約があり日量や納期制限の無い生産活動を午前中に取り入れる事で午前中は生産活動、午後は他の活動と毎日、変化がなく落ち着いた環境を提供する事が出来た。(利用率93%) 予算対比98%となった。</p> <p>運営管理費：3,828千円 実績3,503千円 要因：利用人数8名の予定をしていたが7名となった為に給食費や人数で按分した事務費において予算を下回った。</p>	<p>福祉事業収入：予算8,209千円 実績7,485千円 要因：正月餅蒸忙期の期間を利用して社員が2名体験利用を行った。内、1名は本契約につなぐ事ができたが11月まで利用が無かったため予算対比91%となった。</p> <p>運営管理費：修繕がなかった事や利用人数を4人としていた為に給食費等で予算を下回った。</p>
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・全体では全職員が一丸となって事業収支を意識し担当職員が進捗管理を行い、さらに収支改善に取り組む。 ・食品加工 <ul style="list-style-type: none"> ・スポット特売などを継続してスーパー販売の売上げを維持する。 ・外販ルートの増加と事業所販売の再開を行う。 ・事業所全体で協力体制をとりながら積極的にイベント参加や特注の受注を継続して行う。 ・衛生管理をさらにに行い食品加工従事者にふさわしい事業所となる。 自動車部品 <ul style="list-style-type: none"> ・不良品ゼロを継続して高品質な部品を提供する。検査社員の育成を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定員10名で現員が8名のため定員の充足努める。(目標：新規利用者1名) ・自動車部品においてA型と同様に客先不良ゼロを目指す。 ・もって事業所に通えるよう所外活動等を実施する。<月1回以上>安全に配慮した計画を立て事故ゼロを継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定員10名で現員が8名のため見学・実習を積極的に受け入れて定員の充足努める。(目標：新規利用者1名) ・令和元年度同様に利用者ひとり一人が落ち着いて通所できる様に計画に沿った創作・所外・生産活動を提供する。 ・利用者の休みが多い土曜日や祝日にイベントを企画して出勤率の向上に努める。(目標平均利用者数7.0人 令和元年度実績6.3人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・定員6名で現員が5名のためA型社員に体験利用を促し定員の充足に努める。 ・ニーズに基づいた月1回の余暇支援を充実させ利用者にとって魅力あるプログラムを作成する事も併せて行い目標平均利用者数を達成する。 ・2名の60歳以上利用者は次のサービスに移行できる様に後見制度の利用や家族との同居や有老人ホームの活用など進める。

あわら事業所 令和元年度 決算報告

単位：千円

科目	就労継続A型							就労継続B型							生活介護						グループホーム					
	年間予算	R元年度執行	年間予算達成率	昨年度予算	昨年度執行	昨年度達成率	年間予算	R元年度執行	年間予算達成率	昨年度予算	昨年度執行	昨年度達成率	年間予算	R元年度執行	年間予算達成率	昨年度予算	昨年度執行	昨年度達成率	年間予算	R元年度執行	年間予算達成率	昨年度予算	昨年度執行	昨年度達成率		
就労支援事業等収支	収入	30,909	28,462	92%	33,870	33,456	99%	3,886	3,463	89%																
	①収入計	30,909	28,462	-	33,870	33,456	-	3,886	3,463	-																
	支出	11,586	11,643	100%	11,565	11,398	99%	140	136	97%																
	②支出計	36,736	35,410	-	43,400	41,299	-	3,558	3,342	-																
	③収支差額小計(①-②)	△ 5,827	△ 6,948	-	△ 9,530	△ 7,843	-	328	121	-																
福祉事業等収支	収入	27,263	26,449	97%	38,000	36,514	96%	11,995	13,579	113%				9,507	9,011	95%	8,629	8,176	95%	8,566	7,401	86%	8,520	8,756	103%	
	④収入計	27,263	26,449	-	38,000	36,514	-	11,995	13,579	-				9,507	9,011	-	8,629	8,176	-	8,566	7,401	-	8,520	8,756	-	
	支出	12,099	12,100	100%	17,907	17,317	97%	9,296	9,575	103%				5,673	5,775	102%	4,399	4,093	93%	4,231	4,246	100%	4,072	3,932	97%	
	⑤支出計	18,606	18,240	-	26,186	25,637	-	11,759	12,542	-				8,937	8,659	-	6,846	6,355	-	8,457	8,211	-	8,178	8,145	-	
	⑥収支差額小計(④-⑤)	8,657	8,209	-	11,814	10,877	-	236	1,037	-				570	352	-	1,783	1,821	-	109	△ 810	-	342	611	-	
⑦収支(③+⑥)	2,830	1,261	-	2,284	3,034	-	564	1,158	-				570	352	-	1,783	1,821	-	109	△ 810	-	342	611	-		

科目	事業所 合計						
	年間予算	R元年度執行	年間予算達成率	昨年度予算	昨年度執行	昨年度達成率	
就労支援事業等収支	収入	34,795	31,925	92%	33,870	33,456	99%
	①収入計	34,795	31,925	-	33,870	33,456	-
	支出	11,726	11,779	100%	11,565	11,398	99%
	②支出計	40,294	38,752	-	43,400	41,299	-
	③収支差額小計(①-②)	△ 5,499	△ 6,827	-	△ 9,530	△ 7,843	-
福祉事業等収支	収入	57,331	56,440	98%	55,149	53,446	97%
	④収入計	57,331	56,440	-	55,149	53,446	-
	支出	31,299	31,696	101%	26,378	25,342	96%
	⑤支出計	47,760	47,652	-	41,210	40,138	-
	⑥収支差額小計(④-⑤)	9,571	8,788	-	13,939	13,308	-
⑦収支(③+⑥)	4,072	1,961	-	4,409	5,465	-	

	就労継続A型	就労継続B型	生活介護	グループホーム
令和元年度 決算について	<ul style="list-style-type: none"> ・事業収入・・・予算対比92%となった主要因としては、軍手事業であるが、計画では行政機関を中心として、前年より月500ダース増(前年比113%UP)としていたが、結果は昨年同様の進捗となり予算比△2,300千円となる。行政や企業での新規顧客数は4件にとどまる。一方、ウエス販売において、仕入値増にともなう値上げによりお客様離れが生じたことが大きな原因となった。 ・労務費・・・ほぼ予算での進捗となったが、退職社員への退職金として約1,300千円の支出が生じた。 ・事業経費・・・事業の効率化を図り、車両1台の減車による維持費の削減を行った。また、軍手編み機の老朽化からくる修繕を見込んでいたが、毎日の清掃や定期的なメンテナンスの実施により大きな修繕を抑制することが出来たため予算対比80%となる。 ・運営管理費・・・利用者減による按分比率変更により予算比94%となった。事業所全体としては、エアコン入れ替えにより光熱費の削減となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業収入・・・就労継続支援A型事業同様、前年より月500ダース増(前年比113%UP)としていたが、結果は昨年同様の進捗となり予算比△423千円となる。作業においては、効率化を図り1日の生産量を前年比130%まで達成することが出来た。 ・労務費・・・当初予算では、平均工賃20千円としていたが、経費の削減等により、平均工賃23千円となったため予算比119%となった。 ・事業経費・・・就労継続支援A型事業同様老朽化している機械の修繕を見込んでいたが、毎日の清掃や定期的なメンテナンスの実施により大きな修繕を抑制することが出来たため予算対比68%となる。 ・運営管理費・・・利用者数により事業所内での按分となるが、利用者増による按分比率変更により予算比120%となった。事業所全体としては、エアコン入れ替えにより光熱費の削減となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉サービス等事業収入・・・年間6名で1,310日の利用を目標としていたが、実績は1,239日となった。要因としては、令和元年度から新卒利用となった利用者について、他施設と併用ということから週3日利用を目標としていたが、強度行動障がいがあり、本人の安定を図ることから週2日の利用となったため、予算対比95%となる。 ・運営管理費・・・上記延べ利用者数減にともなう支出の減および、エアコン入れ替えにより光熱費の削減となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉サービス等事業収入・・・当初予算作成時の利用者5名で計上していたが、男女共用となったため女性利用者1名については、別法人グループホームへ11月に異動を図った。また、55歳になった利用者については、今後の予定を保護者を交え検討を開始したが、家庭の事情もあり、結果12月に自宅に戻る事となった。そのため予算に対し2名減となり予算比86%となった。利用者の確保については、当事業所就労継続支援A型利用者の面談時に、利用希望の有無の確認、希望者については利用を促すが利用とはならなかった。(運営管理費においても同様の理由で予算比減となった。)
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度は、当事業所就労継続支援B型へ3名が移行、他法人B型へ1名が移行となり、利用者数17名から13名となる。事業の効率化および事業間の連携体制を整え、少ない人員でも、繁忙期にはその事業に人員を投入するなどの取り組みを行い、さらなる人員の移行等を実施し、収益に合わせた人員配置を行う。 ・新たな販路の確保が課題となっているため、しっかりと確保計画を作成し、実施・見直しを繰り返しながら確保を目指す。また、その状況から見える問題点等の把握に努める。 ・現事業の改善を図りながら、新たな事業取得も視野に入れた活動を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度より、特別支援学校から1名が新たに利用となる。これにより、定員10名を満了することになった。令和元年度中は、就労継続支援A型事業より3名の利用者が就労継続支援B型事業へ移行となったため、利用者の能力に合わせたサービス変更による利用者確保を行う。 ・利用者が順調に増員となってきているので、それに合わせた作業を確保し、令和元年度以上の工賃支給を目指し運営を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度より、特別支援学校から1名が新たに利用となるが利用者の確保が課題となる。新たに利用となったので、引き続き特別支援学校の進路担当教諭と連携を図れるよう訪問等を行い、実習の受け入れ、利用に繋がるよう取り組む。 ・令和元年度は地域の相談支援事業所の紹介により1名の見学はあったが、それ以外はなかったため、相談支援事業所間での情報提供を行い、見学からの利用者確保を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当事業所就労継続支援A型を利用しており利用の興味がある方について、今後の面談時に引き続き利用を促していく。また、年齢が60歳に近づいてきた利用者の方がいるので、今後の移行先の検討および実施を行っていく。このような利用者の入退寮のバランスを見ていき、退寮が多い状況になるようであれば、事業廃止も視野に入れながら運営を行っていく。

小浜事業所 令和元年度 決算報告

単位：千円

科目	就労継続A型						就労継続B型						生活介護						グループホーム						
	年間予算	R元年度執行	年間予算達成率	昨年度予算	昨年度執行	昨年度達成率	年間予算	R元年度執行	年間予算達成率	昨年度予算	昨年度執行	昨年度達成率	年間予算	R元年度執行	年間予算達成率	昨年度予算	昨年度執行	昨年度達成率	年間予算	R元年度執行	年間予算達成率	昨年度予算	昨年度執行	昨年度達成率	
就労支援事業等収支	収入	事業収入																							
		①収入計																							
	支出	材料費																							
		②支出計																							
	③収支差額小計 (①-②)																								
福祉事業等収支	収入	障害福祉サービス等事業収入											61,223	60,476	99%	66,701	57,815	87%	18,240	18,135	99%	16,570	18,689	113%	
		④収入計											61,223	60,476	-	66,701	57,815	-	18,240	18,135	-	16,570	18,689	-	
	支出	人件費 (職員等)											23,322	24,160	104%	24,020	23,787	99%	7,801	7,976	102%	7,454	8,170	110%	
		⑤支出計											15,978	15,131	95%	21,547	16,165	75%	4,103	3,779	92%	3,629	4,482	124%	
	⑥収支差額小計 (④-⑤)												39,300	39,291	-	45,567	39,952	-	11,904	11,755	-	11,083	12,652	-	
	⑦収支 (③+⑥)												21,923	21,185	-	21,134	17,863	-	6,336	6,380	-	5,487	6,038	-	
													21,923	21,185	-	21,134	17,863	-	6,336	6,380	-	5,487	6,038	-	

科目	事業所 合計							
	年間予算	R元年度執行	年間予算達成率	昨年度予算	昨年度執行	昨年度達成率		
就労支援事業等収支	収入	事業収入						
		①収入計						
	支出	材料費						
		②支出計						
	③収支差額小計 (①-②)							
福祉事業等収支	収入	障害福祉サービス等事業収入	79,463	78,611	99%	83,271	76,504	92%
		④収入計	79,463	78,611	-	83,271	76,504	-
	支出	人件費 (職員等)	31,123	32,136	103%	31,474	31,957	102%
		⑤支出計	20,081	18,910	94%	25,176	20,647	82%
	⑥収支差額小計 (④-⑤)	51,204	51,046	-	56,650	52,604	-	
	⑦収支 (③+⑥)	28,259	27,565	-	26,621	23,901	-	
		28,259	27,565	-	26,621	23,901	-	

	生活介護	グループホーム
令和元年度決算について	<ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉サービス等事業収入については、予算作成時見込んでいた新規利用者1名が入所せず、上期は大幅に減収となっていたが、それを補うため相談支援や入所施設との連携で週1回等から利用をスタートした方が2名。入浴サービス需要による新規1名(週2回)など、徐々に改善し予算対99%まで持ち返した。 ・人件費については、年度途中で嘱託職員退職に伴い、正規職員で補充を行った為、約800千円超過した。 ・運営管理費のうち、利用者の活動内容見直しにより工賃に反映していた水道メーター検針など、職員の仕事になってしまっていた活動を利用者主体の活動へと見直したことにより、工賃支給額が全体で年間約30万円減額となった。また、一昨年浴場整備時に電気料金をブレーカー契約(電気使用量の上限を設定)に変更したこと、エアコンを旧式から入替えたことで、予測を超えて電気代の削減(年約180千円)が出来たため。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉サービス等事業収入については、5月に利用者1名が精神的不調により約1か月入院し減収していたが、その分土日営業の頻度を増やして巻き返しを図り、予算対99%となった。 ・運営管理費のうち、修繕費において、予算150千円のところ床の補修や洗濯乾燥機など、部分的な修繕に抑えることで約100千円削減。また、保険料において見込みより約80千円安価であったことなどにより、予算対92%となった。
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者に応じた個別支援の充実と、利用者の意思決定と権利を尊重した適切な支援と良質なサービス提供をするため、支援員の資質向上を図る。 ・入浴サービス提供により、新規利用契約に結び付いた経験から、更に相談支援等関係機関との情報交換を深め、入浴サービス需要を逃さないように努め利用者増を図る。 ・新型コロナウイルス等の感染症予防を徹底し、運営に大きな影響が出ないよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な備品の管理、機器のメンテナンスにより、急な修繕出費にならないよう努める。 ・土日営業を継続すると共に、長期休暇時の帰省や受入れ希望に応じた、適正な支援体制を整えるため、生活介護支援員との連携・協力を深める。 ・新型コロナウイルス等の感染症予防を徹底し、運営に大きな影響が出ないよう努める。

丹南事業所 令和元年度 決算報告

単位：千円

科目	就労継続A型							就労継続B型					生活介護					グループホーム							
	年間予算	R元年度執行	年間予算達成率	昨年度予算	昨年度執行	昨年度達成率	年間予算	R元年度執行	年間予算達成率	昨年度予算	昨年度執行	昨年度達成率	年間予算	R元年度執行	年間予算達成率	昨年度予算	昨年度執行	昨年度達成率	年間予算	R元年度執行	年間予算達成率	昨年度予算	昨年度執行	昨年度達成率	
就労支援事業等収支	収入	事業収入	39,918	37,687	94%	51,490	43,642	85%	6,640	7,052	106%														
		①収入計	39,918	37,687	-	51,490	43,642	-	6,640	7,052	-														
	支出	材料費	17,576	18,588	106%	19,620	19,786	101%	970	944	97%														
		労務費（社員等）	21,614	24,437	113%	30,703	30,278	99%	2,160	3,271	151%														
		事業経費	12,709	10,776	85%	14,588	13,801	95%	3,494	2,648	76%														
	②支出計	51,899	53,801	-	64,911	63,865	-	6,624	6,863	-															
	③収支差額小計（①-②）	△ 11,981	△ 16,114	-	△ 13,421	△ 20,223	-	16	189	-															
福祉事業等収支	収入	障害福祉サービス等事業収入	23,807	28,165	118%	39,043	36,514	94%	8,796	6,647	76%														
		④収入計	23,807	28,165	-	39,043	36,514	-	8,796	6,647	-														
	支出	人件費（職員等）	15,668	15,291	98%	21,527	21,073	98%	6,228	4,289	69%														
		運営管理費	5,420	5,106	94%	7,159	6,954	97%	1,225	781	64%														
		⑤支出計	21,088	20,397	-	28,686	28,027	-	7,453	5,070	-														
	⑥収支差額小計（④-⑤）	2,719	7,768	-	10,357	8,487	-	1,343	1,577	-															
	⑦収支（③+⑥）	△ 9,262	△ 8,346	-	△ 3,064	△ 11,736	-	1,359	1,766	-															

科目	事業所 合計							
	年間予算	R元年度執行	年間予算達成率	昨年度予算	昨年度執行	昨年度達成率		
就労支援事業等収支	収入	事業収入	46,558	44,739	96%	51,490	43,642	85%
		①収入計	46,558	44,739	-	51,490	43,642	-
	支出	材料費	18,546	19,532	105%	19,620	19,786	101%
		労務費（社員等）	23,774	27,708	117%	30,703	30,278	99%
		事業経費	16,203	13,424	83%	14,588	13,801	95%
	②支出計	58,523	60,664	-	64,911	63,865	-	
	③収支差額小計（①-②）	△ 11,965	△ 15,925	-	△ 13,421	△ 20,223	-	
福祉事業等収支	収入	障害福祉サービス等事業収入	32,603	34,812	107%	39,043	36,514	94%
		④収入計	32,603	34,812	-	39,043	36,514	-
	支出	人件費（職員等）	21,896	19,580	89%	21,527	21,073	98%
		運営管理費	6,645	5,887	89%	7,159	6,954	97%
		⑤支出計	28,541	25,467	-	28,686	28,027	-
	⑥収支差額小計（④-⑤）	4,062	9,345	-	10,357	8,487	-	
	⑦収支（③+⑥）	△ 7,903	△ 6,580	-	△ 3,064	△ 11,736	-	

	就労継続A型	就労継続B型
令和元年度 決算について	<p>就労支援事業での事業収入94%について築市で新商品開発や新規利用客増がでず、当初予算△2000千円減となった。</p> <p>材料費106%では、材料費のかからないケーキ製造受託で250千円/月を見込んだが注文が、計画より少なく実績50千円/月となり作業量の確保ができなかった。そのため、材料費率の高いペイクを縮小せず、維持したため材料費増となった。</p> <p>労務費113%については、15名で予算計上していたが、社員を昨年比、5名減らした事で思うように業務が回らず職員の残業が増えた為1名社員を増員させ1590千円/年の増額となった。また、社員2名を1月からB型へ移行を計画していたが、保護者との調整が思うようにならず、年度末の移行となったため、900千円/年の増額となる。</p>	<p>就労支援事業の労務費について、B型開設時は定員の9割利用者がいるものとして人員配置を計上しなくてはならないため、予算では、アルバイト1名を福祉事業の人件費で計上していたが、10月より利用者数に応じた配置となるため就労支援事業で計上し1100千円増となった。</p> <p>福祉事業収入76%について予算では、利用者数6名を見込んでいたが、特別支援学校利用者2名が直前で他法人に行かれた為、新規利用者を獲得できず収入減となった。</p>
次年度に向けて	<p>今後もケーキ製造の収入が見込めないため、ペイクにおいて敷島の生地から自家製生地に移行し、材料費減47%→45%を目指す。</p> <p>現在築市で製造しているパンを今後（6月中）丹南事業所での製造一本化を行い、膳野菜に定休日以外パンクッキー納品やパン外販（+7件）を行い、10千円/日増を目指す。</p>	<p>現在利用者5人であるが、目標6人になるよう各特別支援学校に声掛けやパンフレット等の配布を行い新規利用者の獲得を行う。</p> <p>さらに、賃金向上にむけて需要（人参・ネギ・玉ねぎ）にあった野菜の栽培を行い、27千円/月→30千円/月を目指す。</p>

